

第2部（※任意項目）

○科学研究費助成事業（科研費）について

1. 科研費の概要
2. 科研費改革の趣旨
3. 科研費制度における関係者の役割・研究者の責務

○令和3年度公募について

1. 近年の公募内容変更事項及び令和3年度科研費公募における主な変更点
2. 科研費審査システム改革等について
3. 科研費の使用等に関する主な改善点・変更点について
4. その他連絡事項

○令和3年度科研費への応募について

○科研費電子申請システムの操作方法について

※以下、スライドは文部科学省「科研費の最近の動向及び令和3(2021)年度公募等の説明資料」および「文部科学省「平成30年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」（平成29年9月開催）」資料より抜粋

○科学研究費助成事業（科研費）について

1. 科研費の概要

科学研究費助成事業(科研費)とは

科研費とは、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」であり、ピアレビュー(※)により、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。

※研究者コミュニティによって選ばれている研究者が、科学者としての良心に基づき、個々の研究の学術的価値を相互に評価・審査し合うこと



(ポイント1)

- 人文学、社会科学から自然科学まで**全ての分野が対象**。
 - あらゆる「**学術研究**」(研究者の自由な発想に基づく研究)を**格段に発展させることを目的とする競争的資金**。
《ボトムアップ型研究費》
- ➡ 全ての研究活動の基盤となる「学術研究」を幅広く支援する我が国唯一の競争的研究費。

(ポイント2)

- **ピアレビューにより、助成対象を選定**。
- ➡ 科研費は、研究者コミュニティから最も評価されている制度と言っても過言ではなく、その信頼性を支える重要な要素は、半世紀にわたって不断の改善が図られてきたピアレビューの審査システム。
- (H29年1月科学技術・学術審議会学術分科会提言より)

(ポイント3)

- 豊かな社会発展の基盤となる**独創的・先駆的な研究に対し助成**。
- ➡ **科学の発展の種をまき芽を育てることで、我が国の重厚な知的蓄積の形成、イノベーションによる新たな産業の創出や安全で豊かな国民生活の実現に貢献**。

科研費の位置付け

○科研費は、研究者の自由な発想に基づく研究を支援する我が国唯一の競争的研究費。

研究の性格

研究者の自由な発想に基づく研究
(学術研究)

政策課題対応型研究開発
【mission-oriented research】

資金の性格

【curiosity-driven research】

競争的資金等
(公募・審査による
課題選定)

科研費による研究の推進

府省がそれぞれ定める
目的のための公募型研究
の実施

基盤的研究費等
(運営費交付金等)

大学・大学共同利用機関等
における研究の推進

政府主導の国家プロジェクトや
研究開発法人等における
戦略的な研究開発の推進

研究費マップ

政策的要請

要請研究

国家課題対応型研究開発推進事業
【文科省, AMED】

(注)一部は戦略研究の性格を有するものもある。

研究の契機

戦略研究

国際科学技術共同研究推進事業
【JST等】

戦略的創造研究推進事業
【JST等】

研究成果展開事業
【JST等】

学術研究

科学研究費助成事業
【文科省, JSPS】

研究の性格

知識の発見

基礎研究

応用研究

開発研究 社会実装

○ 本資料は、「学術研究の総合的な推進方策について（最終報告）」（平成27年1月27日 科学技術・学術審議会学術分科会）等で示された研究の分類に、文部科学省の競争的資金について試案としてプロットしたもの。各資金名を示した角丸四角形は、各資金がカバーする主要な研究領域の範囲を概念的に示したものであり、ある座標において採択額・件数の多寡を表現しているものではない。

※区分内における上下の位置は、「政策的要請」又は「研究者の内在的動機」の要素の強弱を示すものではない。

※事業名下側の【】内は配分機関名を示す。

(略称) AMED: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

JSPS: 独立行政法人日本学術振興会

出典: 研究成果の持続的創出に向けた競争的研究費改革について（中間取りまとめ）

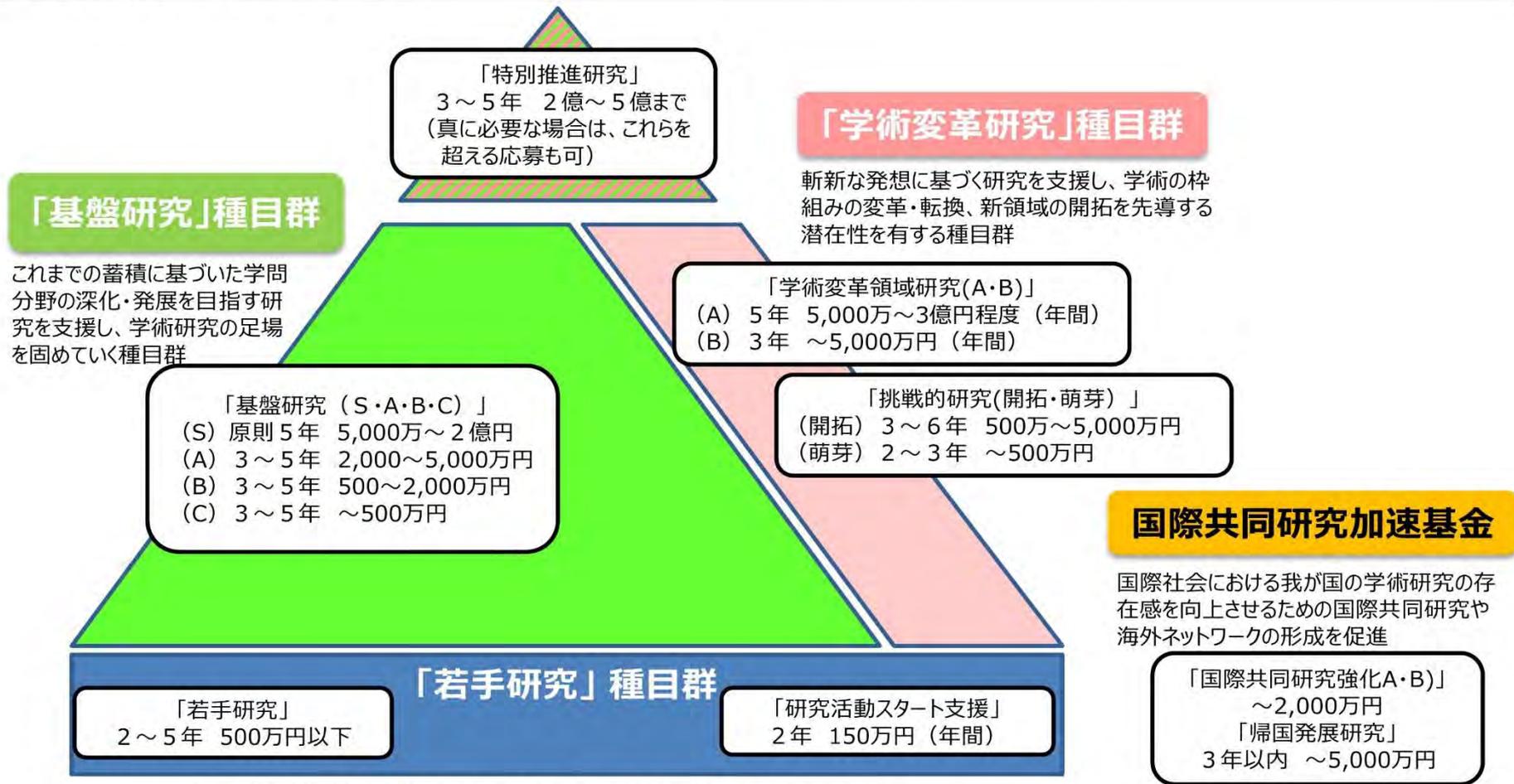
JST: 国立研究開発法人科学技術振興機構

文科省: 文部科学省

平成27年6月24日 競争的研究費改革に関する検討会

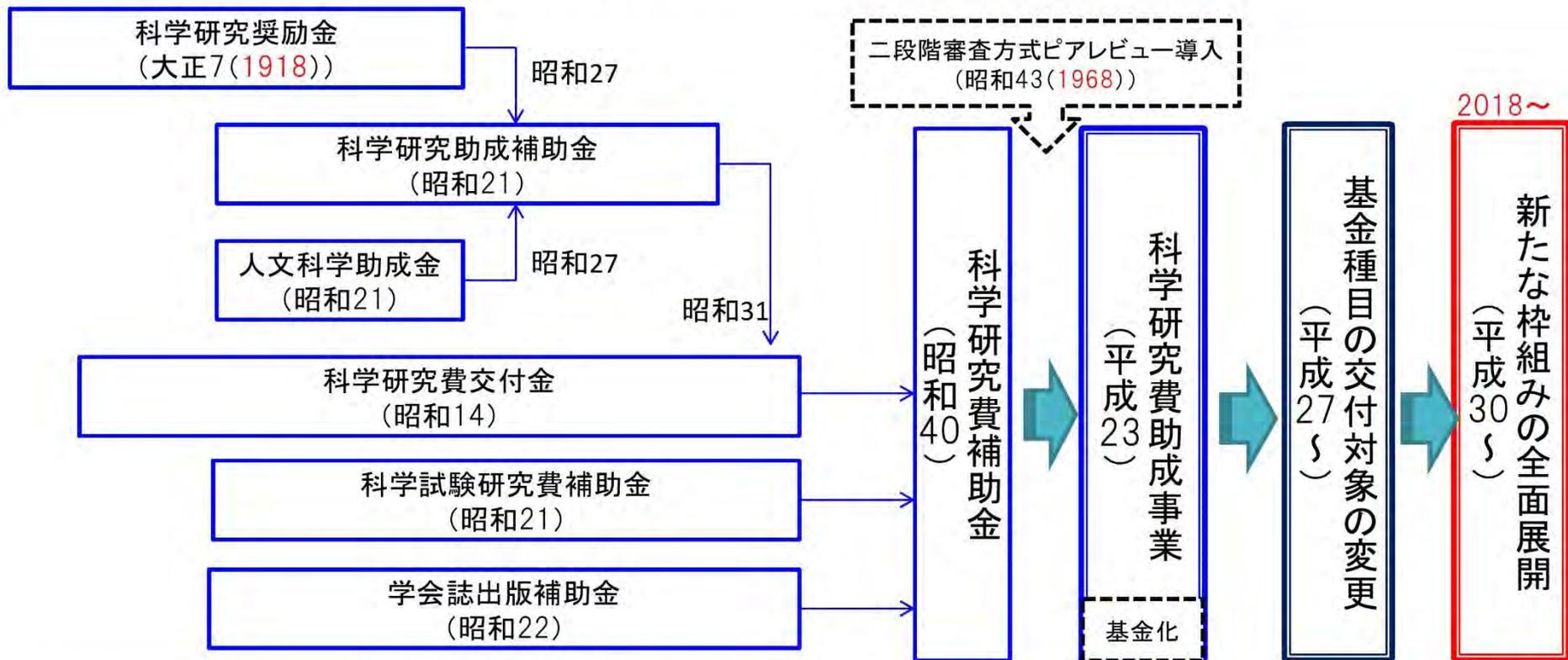
科研費の各研究種目の役割及び全体構成等

- 科研費では、研究の段階や規模などに応じて、応募・審査をしやすくするために「研究種目」を設定。
- 基本的性格を同じとするものを「種目群」として分類。「基盤研究」種目群を中核とし、「若手研究」種目群、「学術変革研究」種目群として整理。



若手研究者に独立して研究する機会を与え、研究者としての成長を支援し、「基盤研究」種目群等へ円滑にステップアップするための種目群

科研費制度の変遷と近年の主な制度改革



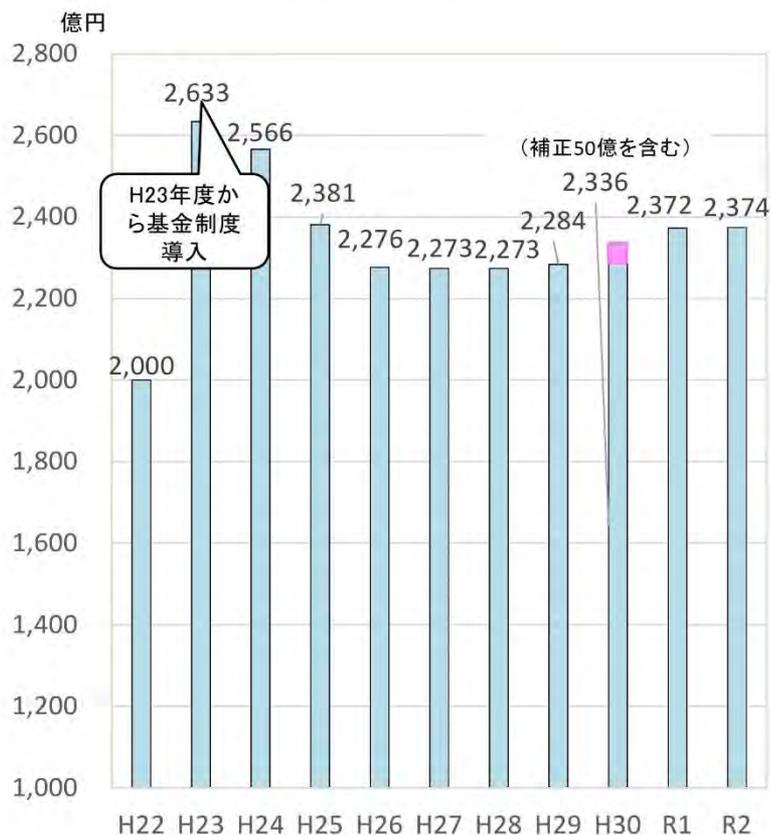
- | | |
|------------|---------------------------------------|
| 1996(平成8) | 不採択課題の審査所見の開示を開始 |
| 2001(平成13) | 一部種目から間接経費を措置、研究支援者の雇用を実現 |
| 2003(平成15) | PD・PO制度である学術システム研究センターを設置 |
| 2011(平成23) | 「基金化」の導入 |
| 2013(平成25) | 補助金に「調整金」枠を設定(前倒し使用、一定要件を満たす場合の次年度使用) |
| 2015(平成27) | 基金交付対象の見直し、海外在住日本人研究者の帰国前予約採択 |
| 2017(平成29) | 「挑戦的萌芽研究」を「挑戦的研究」に発展・見直し |
| 2018(平成30) | 新たな「研究種目・枠組み」及び新たな「審査システム」による公募・審査 |
| 2019(平成31) | 研究成果等の公開情報の充実、海外渡航による科研費の中断・再開制度の導入 |

近年の科研費の制度改革

科研費の予算額と配分状況の推移

○令和元年度の主な研究種目の新規採択件数は2万8,892件で、平成30年度予算に補正予算50億円が基金に措置されるとともに、前年度よりも86億円増加したことにより、3,096件増加し新規採択率は28.4%。

科研費の予算額の推移



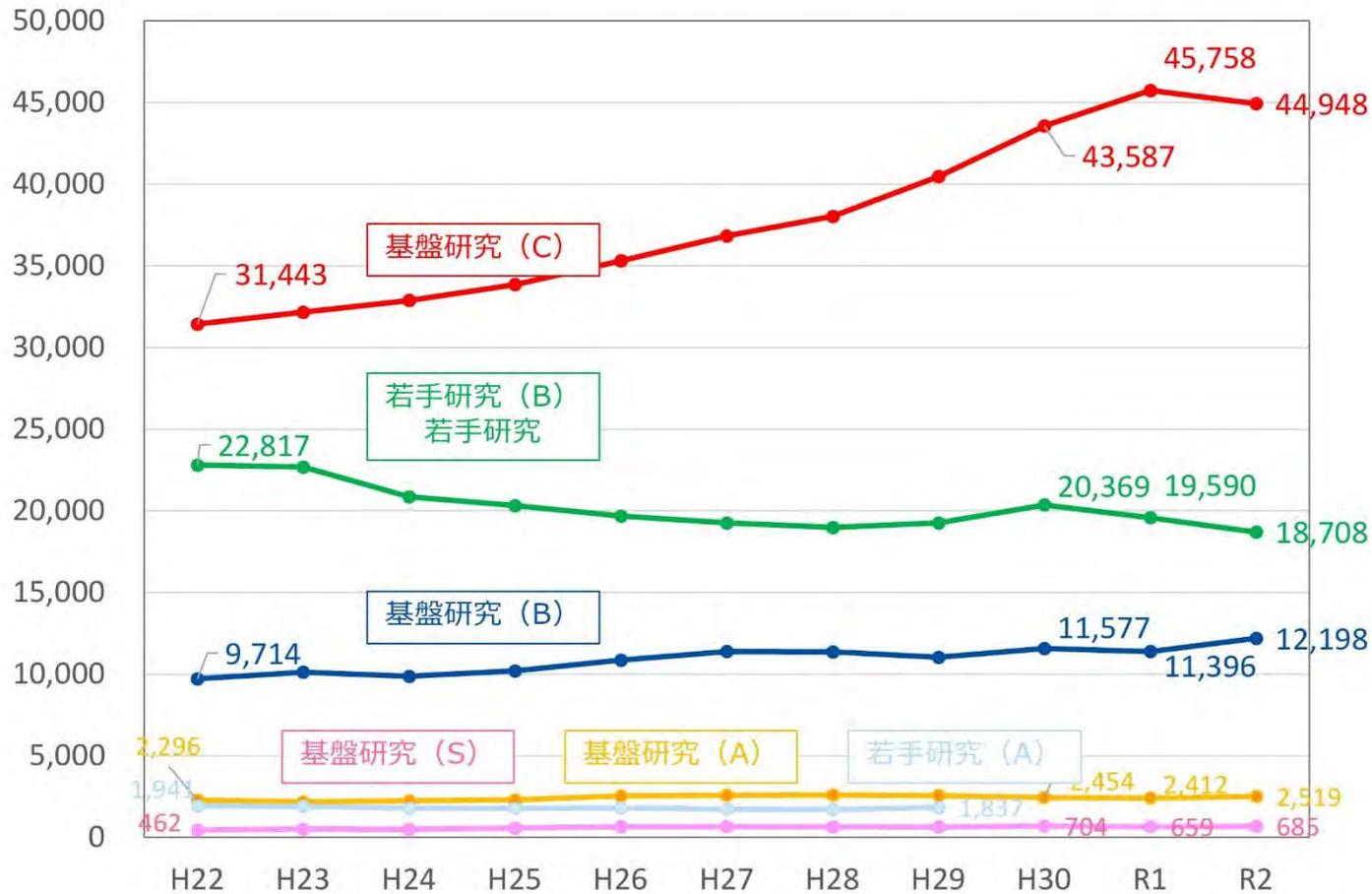
科研費の応募・採択件数、採択率の推移



研究種目別応募状況

○科研費(主な研究種目)の応募件数は平成28年度以降、10万件を超えており、とりわけ「基盤研究(C)」が著しく増えているが、令和2年度には約800件減少。

〔件数〕



- (注1) 若手研究(A)はH30年度以降新規公募停止
- (注2) 基盤研究(B・C)は「特設分野研究」は除く
- (注3) 若手研究(B)はH30年度から若手研究に名称変更

科研費審査結果一覧（（令和2年度 新規採択分））

令和2年8月現在

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
特別推進研究	[106]	[12]	[11.3]
	105	12	11.4

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
新学術領域研究(研究領域提案型) (平成29年度及び令和元年度採択領域) 公募研究	[3,522]	[809]	[23.0]
	3,729	839	22.5

(注1) []内は、前年度の数値を示す。

科研費審査結果一覧（令和2年度 新規採択分）

令和2年8月現在

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
基盤研究	[60,225] 60,350	[16,931] 16,859	[28.1] 27.9
基盤研究(S)	[659] 685	[81] 80	[12.3] 11.7
基盤研究(A)	[2,412] 2,519	[605] 611	[25.1] 24.3
基盤研究(B)	[11,396] 12,198	[3,327] 3,393	[29.2] 27.8
基盤研究(C)	[45,758] 44,948	[12,918] 12,775	[28.2] 28.4

(注1) []内は、前年度の数値を示す。

(注2) 「特設分野研究」は除く。

科研費審査結果一覧（（令和2年度 新規採択分））

令和2年8月現在

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
挑戦的研究	[11,514] 11,329	[1,469] 1,389	[12.8] 12.3
挑戦的研究(開拓)	[699] 1,607	[81] 148	[11.6] 9.2
挑戦的研究(萌芽)	[10,815] 9,722	[1,388] 1,241	[12.8] 12.8

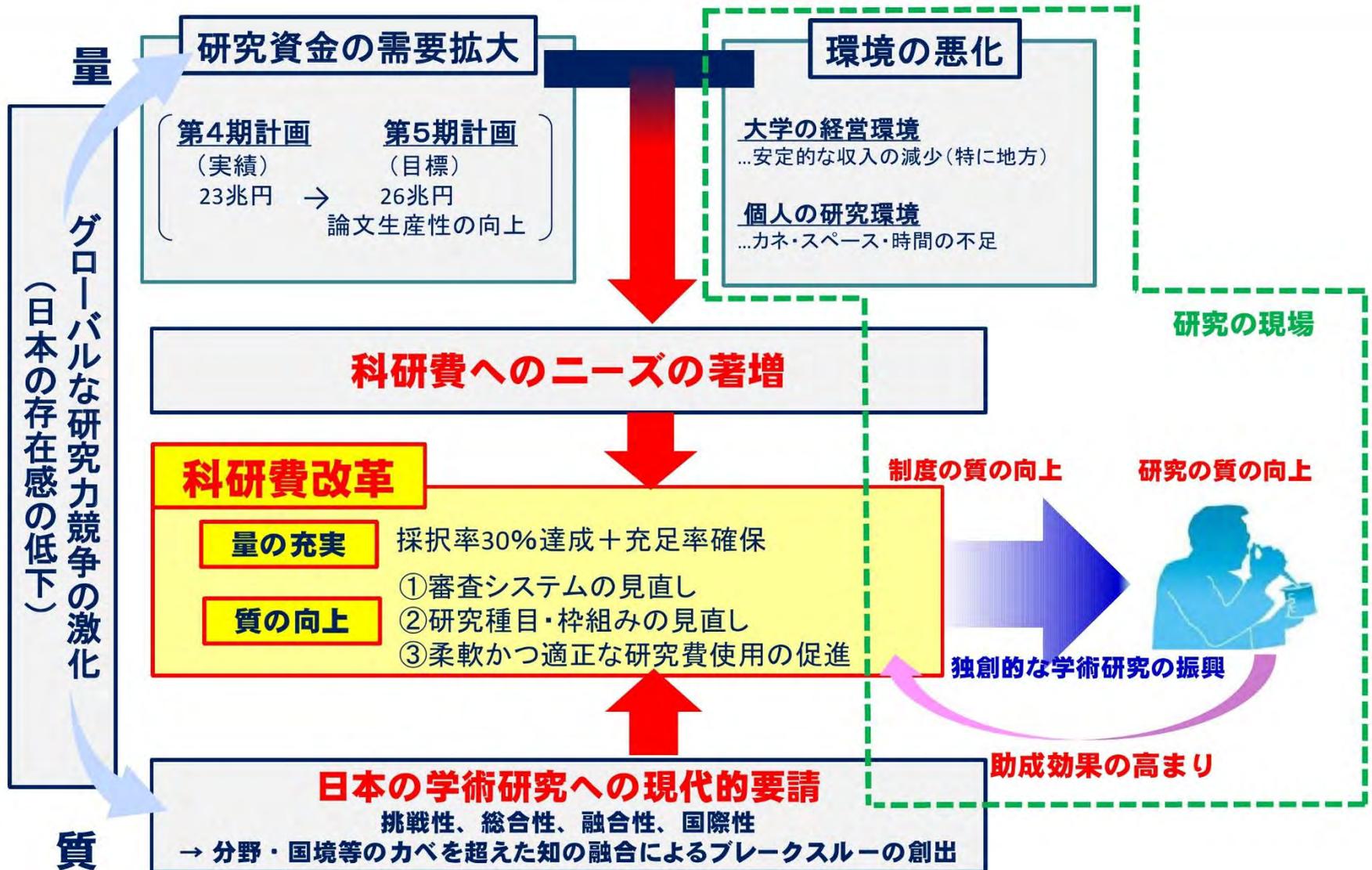
研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
若手研究	[19,590] 18,708	[7,831] 7,496	[40.0] 40.1

(注1) []内は、前年度の数値を示す。

(注2) 「特設審査領域」は除く。

2. 科研費改革の趣旨

科研費改革が求められる背景・構造



科研費改革の三本柱

1968年に従来の審査システムの原型が形作られて以来、50年ぶりの改革

1. 審査システムの見直し

→学術動向の変遷により即した公募・審査を目指し、開かれた競争的環境下において審査の質を高め、多様かつ独創的な学術研究を振興する。

(平成30年度助成～ 大括り化した新「審査区分表」の適用、「総合審査」等の本格実施)

2. 研究種目・枠組みの見直し

→学術研究への現代的要請、とりわけ「挑戦性」をめぐる危機を乗り越えることなどを念頭に、種目の役割・関係性・趣旨等を明確化する。

(平成29年度助成～ 「挑戦的萌芽研究」の発展的見直し)

(平成30年度助成～ 「特別推進研究」、「若手研究(A)」の見直し・新制度の実施等)

(令和2年度助成～ 「新学術領域研究(研究領域提案型)」を発展的に見直し、「学術変革領域研究(A・B)」を創設)

3. 柔軟かつ適正な研究費使用の促進

→研究費使用に係る自由度を高めるとともに手続きの省力化を図り、科研費による研究の効果を更に高める。

(平成23年度助成～ 一部研究種目の基金化)

(平成25年度助成～ 「調整金」の導入)

(令和元年度助成～ 海外渡航時の科研費の中断・再開制度の導入)

「科研費審査システム改革2018」の概要

1. 審査システムの見直し

科研費の公募・審査の在り方を抜本的に見直し、
多様かつ独創的な学術研究を振興する

従来の審査システム(平成29年度助成)

最大400余の細目等で 公募・審査

細目数は321、応募件数が最多の
「基盤研究(C)」はキーワードにより
さらに細分化した432の審査区分で審査。

基盤研究(S)
基盤研究(A)
(B)
(C)
若手研究(A)
(B)

・ほとんどの研究種目で、細目ごとに同様の審査を実施。

・書面審査と合議審査を異なる審査委員が実施する2段審査方式。

※「挑戦的萌芽研究」を発展・見直し、平成29年度公募から新設した「挑戦的研究」では、「中区分」を使用し、「総合審査」を先行実施。

「分科細目表」
を廃止

新たな審査システムへ移行

新たな審査区分と審査方式による公募・審査 ~平成30年度助成(平成29年9月公募)~

大区分(11)で公募・審査 中区分を複数集めた審査区分

基盤研究(S)

中区分(65)で公募・審査 小区分を複数集めた審査区分

基盤研究(A)

挑戦的研究

小区分(306)で公募・審査

これまで醸成されてきた多様な
学術に対応する審査区分

基盤研究(B)
(C)

若手研究

「総合審査」方式—より多角的に—

個別の小区分にとらわれることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。

※基盤研究(S)については、「審査意見書」を活用。

・特定分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。

・改善点(審査コメント)をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。

「2段階書面審査」方式—より効率的に—

同一の審査委員が電子システム上で2段階にわたり書面審査を実施し、採否を決定。

・他の審査委員の評価を踏まえ、自身の評価結果の再検討。

・会議体としての合議審査を実施しないため審査の効率化。

(注) 人文社会・理工・生物等の「系」単位で審査を行っている大規模研究種目(「特別推進研究」、「新学術領域研究」)の審査区分は基本的に従来どおり。

審査方式については、当該種目の見直しの進捗を踏まえて逐次改善する予定。

「科学研究費助成事業の審査システム改革について」(平成29年1月17日科学技術・学術審議会学術分科会)

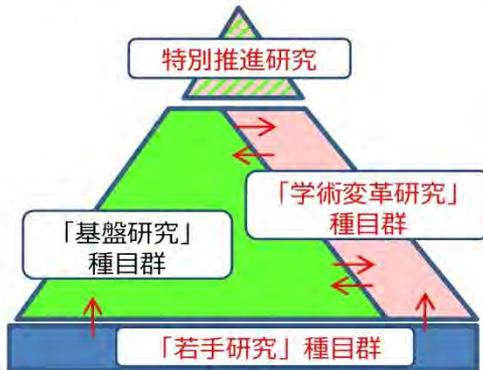
文科省HP掲載箇所 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm

1. 日本の研究をめぐる危機

- 我が国の学術研究にとって、**新たな知の開拓に挑む「挑戦性」の追求が最重要課題。**
 - しかし、近年、以下のような問題が顕在化。
 - ・ 研究者の自由な**ボトムアップ研究をめぐる環境が劣化**（基盤的経費の縮減、研究時間の減少など）。
 - ・ 短期的な成果を目指した研究が増加する一方、**長期的視点に立った挑戦的な研究が減退。**
 - ・ 軌を一にして、日本の論文生産の順位などにおける存在感の低下（過去10年でTop10%論文数 4位→10位）。
- ⇒ **学術研究を支える唯一の競争的資金である科研費により、学術の枠組みの変革・転換を志向する挑戦的な研究を積極的に支援。** 学問の「たこつぼ化」を是正する**審査システム改革との一体的な見直し**を推進。

2. 研究種目の見直し

- 「基盤研究」種目群を基幹としつつ、相補的な「**学術変革研究**」種目群等を再編・強化し、新たな体系へ。
- 各種目の性格に応じた**採択率・充足率のバランス**を確保。



(1) 「挑戦的萌芽研究」の見直し

- 学術に変革をもたらす**大胆な挑戦**を促すため、現行の「挑戦的萌芽研究」（～500万円）を**発展させ、より長期的かつ大規模な支援を可能化。**
- ⇒ **新種目「挑戦的研究（萌芽）」（～500万円）、「挑戦的研究（開拓）」（500～2000万円）を創設。**【平成29年度助成から】

(2) 「若手研究」の見直し等

- オープンな場での**切磋琢磨**を促すため、大型の「若手研究（A）」を「**基盤研究**」に**統合。**【平成30年度助成から】
- 若手の**基盤形成**を幅広く支援するため、小型の「若手研究（B）」を**充実。**
- **研究者としての独立**に必要な研究基盤整備のため、**所属機関と連携した重点支援の仕組みを新設。**
- 「若手研究」の応募要件を**博士号取得後8年未満の者**に変更。
- 上記の取組を中心に「**若手支援プラン**」を策定。

(3) 「特別推進研究」の見直し

- 「**挑戦性**」を一層重視し、助成対象の**新陳代謝を促進**（同一研究者の複数回受給を不可に）。【平成30年度助成から】

(4) 「新学術領域研究」の見直し

- 「**新学術領域研究**」を**発展的に見直し**、次代の学術の担い手となる研究者の参画を得つつ、これまでの学術の体系や方向を大きく**変革・転換**させることを先導する**新種目「学術変革領域研究（A・B）」を創設。**【令和2年度助成から】

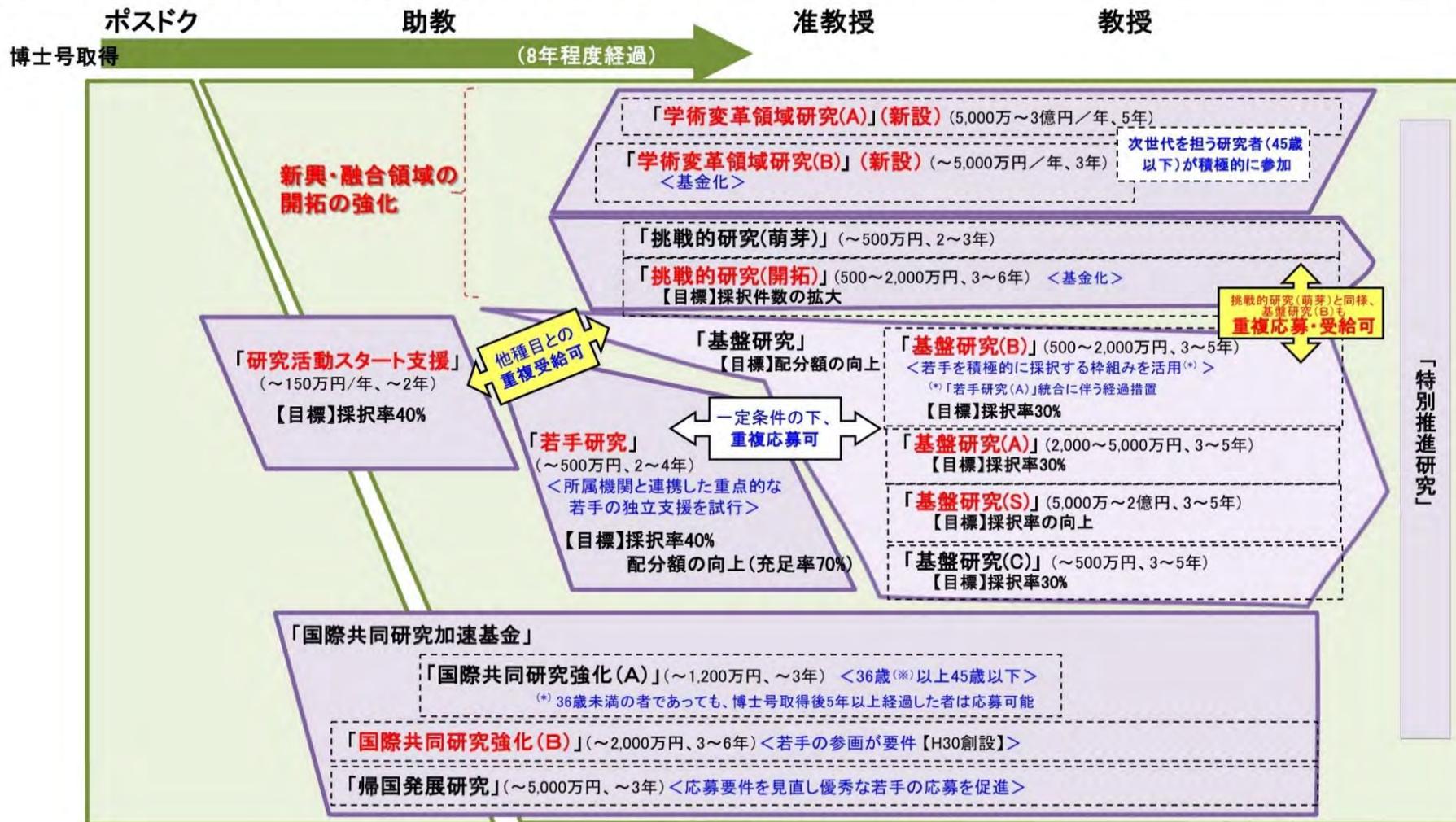
科研費若手支援プラン(令和元年改訂版)

【基本的な考え方】

博士人材育成と軌を一にして、研究者のキャリアに応じた効果的な支援策を切れ目無く展開

→研究室主宰者としての円滑な独立を支援するとともに、挑戦機会を増やすことでオープンな場での切磋琢磨を促進

※若手のロールモデルとなる中堅層への支援を含め、科研費を改革・強化



※図は令和元年度のものであり、青字の記載は現行とは異なるものがあります。研究者のキャリアに応じた支援を展開していることを示す資料として掲載しています。

3. 科研費制度における関係者の役割

- ・研究者の責務

科研費における文部科学省と日本学術振興会との役割分担

○文部科学省とJSPSの役割を明確にしつつ、両者が連携・協力して制度改善に努めている。

科研費制度を所管

文部科学省

○科学技術・学術審議会の報告・決定等

- ・ 審査に当たっての基本的な考え方
(研究種目の目的・趣旨、審査方式など)
- ・ 評価の在り方
(中間事後評価、進捗評価の対象種目など)
- ・ 科研費制度全体の在り方、改善の方向性等

必要に応じた
見直し・改善

科学技術・学術審議会学術分科会

- ・ 研究費部会
- ・ 科学研究費補助金審査部会

※両部会の下に「科研費改革に関する作業部会」を設置

審査・評価の実施を担当

日本学術振興会

○科学研究費委員会

- ・ 審査・評価の実施
(審査会の運営など)
- ・ 審査・評価規程の策定
(審査の進め方、評価基準の観点・基準、
評価の具体的方法など)

組織のイメージ

審査・評価第一部会
(特別推進研究)

人文・社会系小委員会

理工系小委員会

⋮

審査方針等を
通知

両者が連携・協力して
制度改善などを検討

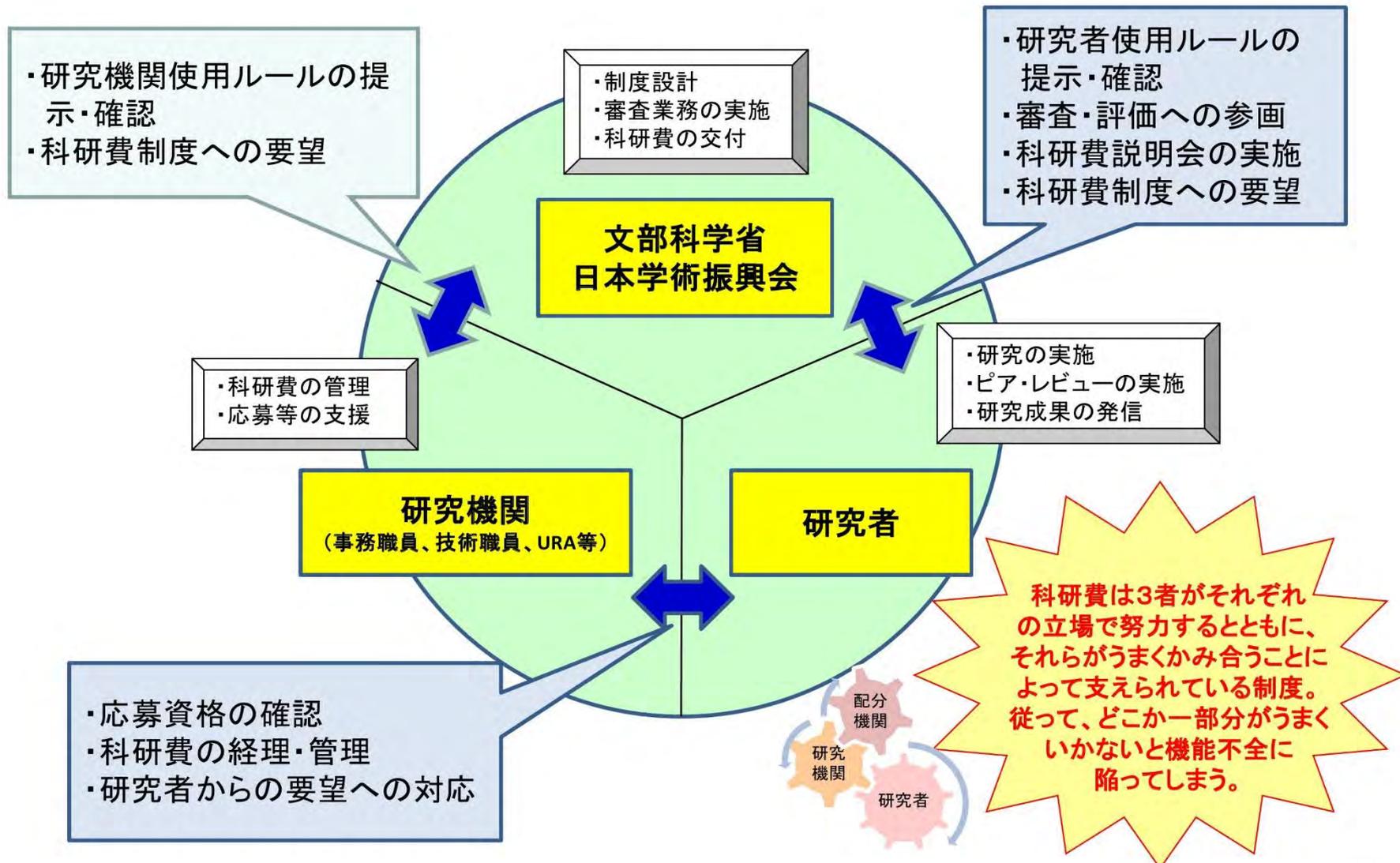
連携

学術システム研究センター

- ・ 審査委員候補者の選考
- ・ 審査の検証
- ・ 審査の仕組み・運営、評価方法等について、PO(研究者)の立場から見直し・改善を検討

外部からの要望等の受付(科研費に関するご意見・ご要望受付窓口設置)

科研費における三者の関係と役割



研究者が支える科研費制度－研究者には3つの「責務」がある－

「応募者」としての責務

- ・現在、科研費は研究者にとってだけでなく、研究機関にとっても基盤的な研究費として大変重要な研究費と認識されていますので、**研究機関が研究者に科研費への応募を促す**こともあるかと思えます。
- ・科研費の応募は研究者の発意に基づいて行われるものであり、各研究機関において科研費に応募させることを目的化することは望ましくなく、**応募者は自らの責任において研究計画を立案**する必要があります。
- ・研究者は、研究計画調書の作成にあたって、**十分な準備と推敲を重ね、質の高い研究計画に応募**するよう心掛けてください。

「研究実施者」としての責務

- ・応募研究課題が採択された研究者は、**研究実施者として関係法令や補助条件等を遵守**し、研究を実施することになります。文部科学省・日本学術振興会では、科研費の使い勝手が良くなるよう、運用上の改善を図っています。
- ・科研費による研究は、**研究者の自覚と責任において実施**するものですので、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。
- ・研究者は、公的研究費を使用する者として、**研究者倫理の自覚の下に、不正使用や不正受給、不正行為を決して行うことなく、研究活動に従事**してください。

「審査委員」としての責務

- ・科研費の審査には、**毎年7,000名以上の研究者(科研費採択者等)が審査委員として参画**し、公正で透明性の高い審査システムを支えています。
- ・審査委員が担当する**書面審査の件数を減少させるなどの改善**を図っていますが、現在、新規応募件数は10万件を超えております。
- ・研究者にとって、**審査委員として優れた研究計画を見出すことは、科研費によって優れた研究成果を創出することと同様、学術研究を支えるためにも重要なこと**ですので、積極的な御協力をお願いします。

研究者の自覚と責任について

・科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

・なお、科研費による研究成果を広く一般に公表する場合等において、研究者個人の見解である旨を記載する際の記載例は以下のとおりです。

【英文】Any opinions, findings, and conclusions or recommendations expressed in this material are those of the author(s) and do not necessarily reflect the views of the author(s)' organization, JSPS or MEXT.

【和文】本研究の成果は著者自らの見解等に基づくものであり、所属研究機関、資金配分機関及び国の見解等を反映するものではありません。

研究者が遵守すべき行動規範について

- ・科学的知識の質を保証するため、また、研究者個人やコミュニティが社会からの信頼を獲得するためには、科学者に求められる行動規範を遵守し、公平で誠実な研究活動を行うことが不可欠です。
- ・日本学術会議「科学者の行動規範」(うち、I. 科学者の責務)や、日本学術振興会「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」(特に、Section I 責任ある研究活動とは)の内容を理解し確認してください。
- ・なお、交付申請時に、研究代表者及び研究分担者が研究倫理教育の受講等をしていることについて、電子申請システムにより確認します。

参考：【日本学術会議「科学者の行動規範－改訂版－」】

URL : <http://www.scj.go.jp/ja/scj/kihan/>

【日本学術振興会「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」】

(日本語版(テキスト版))(日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会)

URL : <https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>

○令和3年度公募について

説明資料について

- 本説明資料では、科研費制度の最近の動向として、科研費改革に関連する改善点やその背景等とともに、近年の公募内容変更事項や「令和3年度科研費公募における主な変更点」等の説明を行い、制度への理解を深めてもらうことを目的としております。
- 令和3年度公募で新たに変更した内容については、右上に  マークを付けております。
- 本説明資料は重要な内容を抜粋して掲載したものです。詳細は必ず公募要領等をご確認ください。
- 本説明資料をご覧いただきご不明な点等がありましたら、FAQをご参照いただくとともに電話にて各担当までお問い合わせください。

1. 近年の公募内容変更事項及び令和3年度科研費公募における主な変更点

若手研究者の挑戦機会の拡大について

- 若手研究者の挑戦機会の拡大は、科研費改革における重要な要素のひとつです。科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会における審議において「若手研究」と関連する種目群との関連性を考慮、整理の上「科研費若手支援プラン」が策定されました。このプランは、挑戦機会を増やすことでオープンな場での切磋琢磨を促進するための様々な取組が講じられています。一連の資料は、若手研究者の挑戦機会の拡大を念頭に講じている取組で公募内容に関連の深い事項を説明しております。

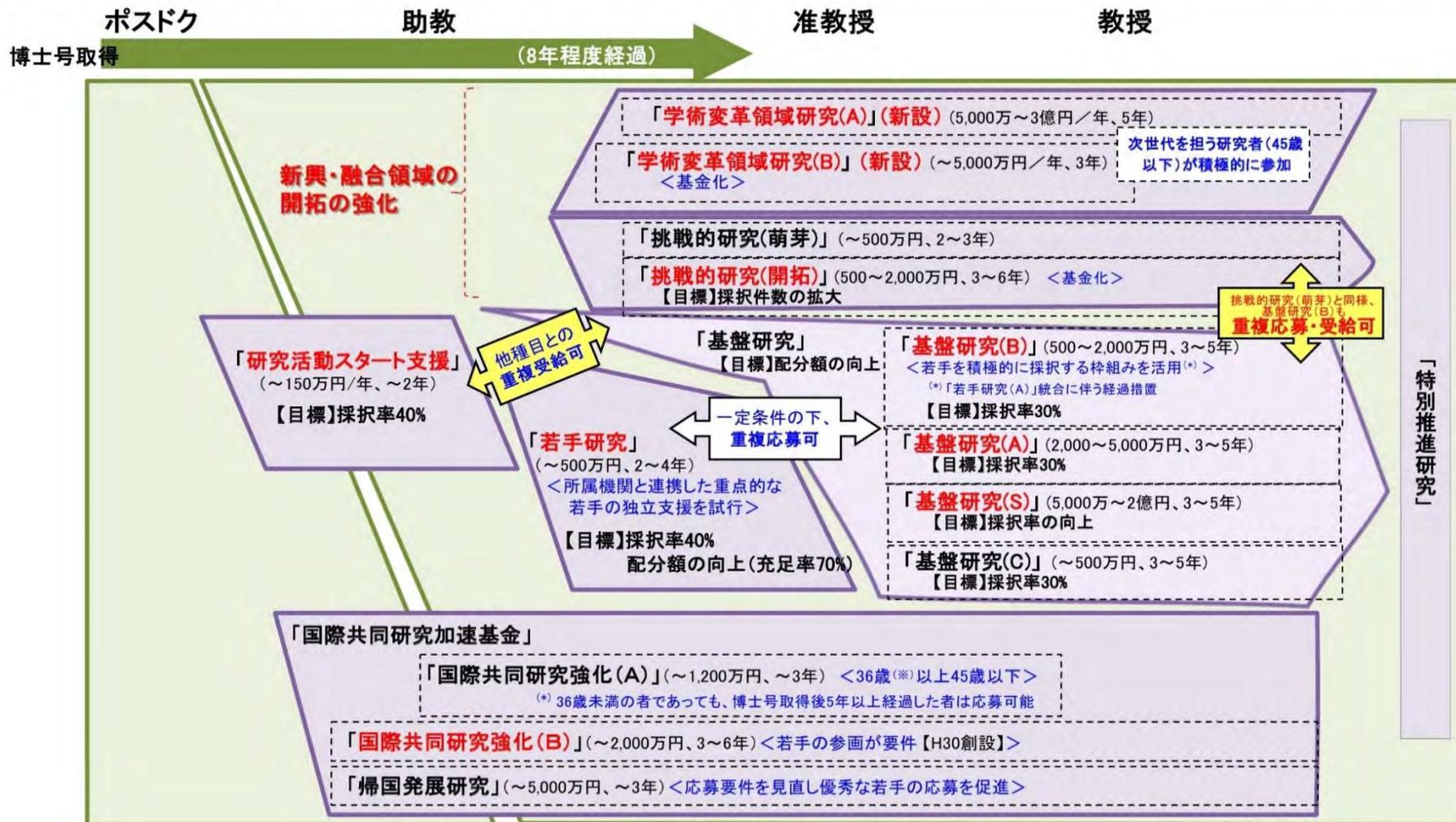
科研費若手支援プラン(令和元年改訂版)

【基本的な考え方】

博士人材育成と軌を一にして、研究者のキャリアに応じた効果的な支援策を切れ目無く展開

→研究室主宰者としての円滑な独立を支援するとともに、挑戦機会を増やすことでオープンな場での切磋琢磨を促進

※若手のロールモデルとなる中堅層への支援を含め、科研費を改革・強化



※図は令和元年度のものであり、青字の記載は現行とは異なるものがあります。研究者のキャリアに応じた支援を展開していることを示す資料として掲載しています。

前提① 科研費に「若手研究」を設定している趣旨、種目の位置付けの再確認

科研費による若手研究者の支援の在り方

若手研究者支援の在り方の検討においては、科研費の体系において中核である「**基盤研究**」を中心に据え、将来的に若手研究者が「基盤研究」へ移行していくということに重点を置いて検討すべきである。

若手研究者が研究活動を始め段階で研究の機会を与えるために、支援を行うことは重要であるが、できるだけ早い段階で、より円滑に、科研費の中核である「基盤研究」に移行していくことができるように、若手研究者支援の枠組みを作っていくことが重要である。

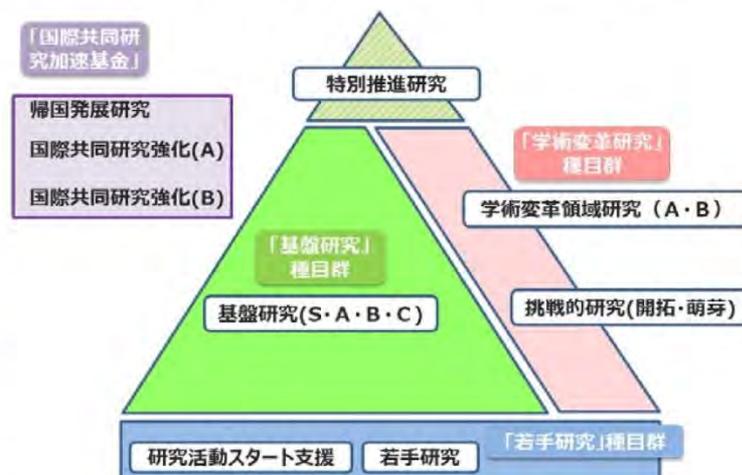
「科学研究費補助金に関し当面講ずべき措置について（これまでの審議のまとめ）」
(平成21年7月16日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

「若手研究」の目的・意義の再確認

「若手研究」の目的・意義は「経験の少ない若手研究者に研究費を得る機会を与え、研究者として良いスタートを切れるように支援すること」、そして、「若手研究者が十分に力を蓄えていない段階であっても、支援をすることにより、多様な試みの中から本当に育つべきものがしっかりと足掛かりを得、将来の斬新な研究につながっていくようにすること」にあり、科研費の中でも**若手研究者に限定した一定期間の特別な支援**である。

「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」
(平成28年12月20日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

科研費の各研究種目の役割及び全体構成等



前提② 「若手研究」は制度の趣旨を踏まえ、一貫した考え方の下、これまで様々な制度を改善。

H22

}

- 「若手研究 (S・A・B)」全体を通じて、**受給回数を2回に限定**
- 若手研究のうち**4年の研究期間の研究**については、**基盤研究への研究計画最終年度前年度応募の重複応募制限を緩和**

H30

}

- 若手研究の**研究計画最終年度前年度応募対象を4年の研究から3年以上の研究に拡大**
- 若手研究の応募要件を39歳以下から、**博士号取得後8年未満の者に変更**

- 「若手研究 (A)」の見直し (「基盤研究」への統合)

経験の浅い若手研究者に独立して研究する機会を与え、研究者としての良いスタートを切れるようにするという「若手研究」の趣旨に鑑みれば、既にシニアな研究者と十分に競い合うことのできる研究者については、特別な制度である「若手研究 (A)」によることなく、「基盤研究」種目群の充実により、そのキャリア形成に即した適切な支援が十分可能であり、好ましい在り方と言える。

「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」(平成28年12月20日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

- 「若手研究 (A)」の見直しに伴い、「基盤研究 (B)」の審査において、若手研究者による応募課題から**優先的に採択できる枠組みの設置**
(時限的な経過措置：令和2年度助成をもって終了)

【令和2年度公募から開始】若手研究者の挑戦機会の拡大 R2公募の変更点

「若手研究」見直し後の若手研究者の応募動向等からは、若手研究の目的の一つである「基盤研究」への円滑な移行、特に「より大きな規模の研究種目への挑戦」という部分に課題。

〈現状認識〉

- 「若手研究（A）」の新規公募停止に伴って、従来「若手研究（A）」に応募していた研究者層が一定程度、金額規模が近い「基盤研究（B）」へ移行。
- 一方で、金額規模がより小さな「基盤研究（C）」への移行の傾向が強いことが確認されている。また、「基盤研究（S）、（A）」への若手研究者による応募は従前より非常に少ない。
- これらの要因として、若手研究者の研究ポストの不安定性等の我が国の研究環境が抱える課題を背景として、若手研究者が自らの研究を発展させるため、リスクを取って大規模な研究に挑戦することが困難な状況となっているのではないか。
- 研究の高度化や国際競争の激化の最中において更なる研究力向上を図るためには優秀な若手研究者に対して、より大規模な研究課題への挑戦を促すことが必要ではないか。
- 「若手研究」を基とした「研究計画最終年度前年度応募」の活用状況は低い割合にとどまっている。



優秀な若手研究者に対して、より大規模な研究への挑戦を促すため、

「若手研究（2回目）」の応募要件を満たす者が、基盤研究（S）、（A）、（B）に応募する場合は、「若手研究（2回目）」との重複応募を可能とする。

（両方採択となった場合は、基盤研究を優先）

【参考】令和2年度公募で行った重複応募制限等の緩和について(その1)

「若手研究（2回目）」と「基盤研究（S・A・B）」との重複応募・採択状況

速報値

令和2年度公募	若手研究と基盤研究の 重複応募件数	基盤研究の 採択件数	若手研究の 採択件数
基盤研究(S)	1	0	1
基盤研究(A)	6	0	3
基盤研究(B)	559	121	415

(基盤研究と若手研究(2回目)がいずれも採択された場合は、基盤研究のみを実施。基盤研究(C)は重複応募の対象外)
(「若手研究の採択件数」には基盤研究に同時に採択されたため、実施されない若手研究の件数を含む)

- この緩和措置により、600名弱が「基盤研究（S・A・B）」と重複応募。
- 自身の研究計画に対応する規模の研究種目への挑戦が確認できる。
- このうち基盤研究（B）では121名が採択されており、基盤研究に不採択の場合であっても、多くの研究者が若手研究として採択されている。
- 「若手研究」の採択等を通じて一定の経験を積んだ若手研究者が、次のステップに進もうと、より大規模な研究への挑戦を望む際のリスク緩和を図り、若手研究者の挑戦機会を拡大する」という目的を踏まえた緩和措置について、一定の効果があったと考えられる。

「研究活動スタート支援」の他研究種目との重複受給制限の緩和

●現状の公募～審査～研究のスケジュール



【背景】

○「研究活動スタート支援」は、採択者に占める若手研究者比率が非常に高く（H30実績：約85%）、**若手研究者のチャレンジの機会を促進し、研究環境の更なる向上に向けた制度改善**として、有益な取組である。

○重複受給制限を課して、8月下旬の採択から約7ヶ月間で廃止するより、**当初計画に基づいて研究を継続させることが、効果的な研究実施に資する。**



【制度改善の方向性】

新しい、柔軟な発想を持った採用直後の研究者に一層の挑戦を促すため、**他種目との重複受給制限を緩和**

「若手研究」の研究期間の延伸

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

現状

- 「若手研究」の目的・意義は、「経験の少ない若手研究者に研究費を得る機会を与え、研究者として良いスタートを切れるように支援すること」、そして、「若手研究者が十分に力を蓄えていない段階であっても、支援をすることにより、多様な試みの中から本当に育つべきものがしっかりと足掛かりを得、将来の斬新な研究につながっていくようにすること」にあり、科研費の中でも**若手研究者に限定した一定期間の特別な支援**である。
- 若手研究者が継続的・安定的に研究を遂行できることは極めて重要であり、「基盤研究(A・B・C)」と同様、研究期間を延伸することを検討すべきではないか。



改善に向けた方向性

- これまで以上に継続的・安定的な研究実施を可能とするため、研究期間の上限を5年間に延伸する。なお、若手研究者が次のキャリアを形成していく上で、研究期間設定の自由度は高い方が望ましいと考えられるため、下限は引き続き2年間とする。

令和3(2021)年度公募より、「若手研究」の研究期間を「2～4年間」から「2～5年間」に延伸する。

「若手研究」種目群への「基盤研究」種目群採択者の応募制限

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

現状

- ・ (再掲) 「若手研究」の目的・意義は、「経験の少ない若手研究者に研究費を得る機会を与え、研究者として良いスタートを切れるように支援すること」、そして、「若手研究者が十分に力を蓄えていない段階であっても、支援をすることにより、多様な試みの中から本当に育つべきものがしっかりと足掛かりを得、将来の斬新な研究につながっていくようにすること」にあり、科研費の中でも**若手研究者に限定した一定期間の特別な支援**である。

改善に向けた方向性



- ・ 「若手研究」種目群の趣旨に照らし、「若手研究」種目群から「基盤研究」種目群へのスムーズな移行を励行するため、一度「基盤研究」種目群を受給した者については、「若手研究」への応募を認めない方向で応募制限を見直す。
- ・ 具体的には、研究費部会において、若手研究者が「できるだけ早い段階で、より円滑に、科研費の中核である「基盤研究」に移行していくこと」の重要性が示された平成21年度(平成22年度助成)以降に「基盤研究」種目群を受給したものが応募制限の対象。

令和3(2021)年度公募より、平成22年度以降に「基盤研究」種目群を受給した者の「若手研究」への応募を認めないこととする。

※ 電子申請システム上で応募が受け付けられても審査に付されませんので応募の際には十分注意してください。

若手研究における応募資格の経過措置

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

経過措置導入の背景

- 「若手研究」の応募要件は、若手研究者のキャリア形成に係る多様なニーズに的確に応えるとともに、国際通用性にも留意し、より効果的な支援を行う観点から、平成30年度助成より、年齢から博士号取得後の年数に見直された。
- この応募要件見直しによる激変が生じないよう、39歳以下の博士号未取得者については、当面は応募を認める経過措置を設けることとされたところ。
- また、経過措置の期間については、新要件導入後3年程度とし、応募・採択の状況を踏まえて改めて検討（分野の特質を勘案する適否を含む）することとされた。



改善に向けた方向性

- 新要件導入後3年の応募・採択の状況等を踏まえると、経過措置の導入により激変が生じることなく制度の定着が進んでいると考えられることから、令和2年度をもって応募資格の経過措置は終了することが適当。

令和3(2021)年度公募より「若手研究」の応募要件を「博士号取得後8年未満の者」とし、39歳以下の博士号未取得者対象の経過措置は令和2(2020)年度公募をもって終了。

「若手研究」の応募資格経過措置について②

令和3年度公募における「若手研究」応募の可否

応募要件から年齢を撤廃

	39歳以下の研究者	40歳以上の研究者
博士の学位未取得者	× (注1)	× (注1)
博士の学位取得後8年未満	○	○
博士の学位取得後8年以上	× (注2)	× (注2)

(注1)

応募時に博士の学位を取得しておらず、令和3年4月1日までに博士の学位を取得する見込の者は応募可能。

※ただし、博士の学位を取得できなかった場合には、採択されても交付申請を辞退。

(注2)

博士の学位取得後に取得した育児休業等（産前・産後の休暇、育児休業）の期間を除くと、博士の学位取得後8年未満となる者は応募可能。

優先採択の仕組み（経過措置）の廃止

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

経過措置導入の背景

- 経験の浅い若手研究者に独立して研究する機会を与え、研究者としての良いスタートを切れるようにするという「若手研究」の趣旨に鑑みれば、既にシニアな研究者と十分に競い合うことのできる研究者については、特別な制度である「若手研究(A)」によることなく、「基盤研究」種目群の充実により、そのキャリア形成に即した適切な支援が十分可能であり好ましい在り方ではないか、という考えのもと「若手研究(A)」が「基盤研究」種目群に統合。
- この見直しに伴い、若手研究者の採択状況をめぐって当事者に過度の不安を生じさせないよう「基盤研究(B)」の審査において、若手研究者による応募課題から積極的に採択できる枠組みの設置（時限的な経過措置）

改善に向けた方向性



- 「基盤研究(B)」の39歳以下の研究者の応募・採択件数は、本経過措置導入初年度の平成30年度に、前年度と比較し2倍以上に増加。また、令和2年度公募から「若手研究」と「基盤研究(A・B・C)」の重複応募制限を緩和したことにより、「基盤研究(B)」の39歳以下の研究者の応募・採択件数は更に増加している。
- これらの結果を踏まえると、本措置の目的はある程度達成されていると考えられることから、令和2年度をもって終了することが適当。

「基盤研究(B)」の審査において、若手研究者による応募課題から優先的に採択できる枠組みは令和2(2020)年度公募をもって終了。

「学術変革研究」種目群による挑戦的な研究の促進について

- 挑戦的な研究の促進は、科研費改革における重要な要素のひとつです。科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会における審議においては、「基盤研究」種目群とは別に「学術変革研究」種目群の体系が位置づけられています。
- また、「学術変革研究」種目群には、次代の学術の担い手となる研究者の参画を得つつ、多様な研究グループによる有機的な連携の下、様々な視点から、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することなどを目的とする「学術変革領域研究」を設定するとともに、斬新な発想に基づき、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向する研究を対象とした「挑戦的研究」を設定しています。一連の資料は、「学術変革研究」種目群による挑戦的な研究の促進に関する取組を説明しております。

- 学術変革領域研究（A・B）の令和3(2021)年度の公募は、令和2(2020)年11月頃、文部科学省から行うことを予定しています。
- 「新学術領域研究（研究領域提案型）」の継続領域（平成30(2018)年度採択領域）の公募研究は、令和2(2020)年9月に文部科学省から公募します。

「学術変革領域研究」の創設

本種目は、新学術領域研究（研究領域提案型）を見直し、次代の学術の担い手となる研究者の参画を得つつ、多様な研究グループによる有機的な連携の下、様々な視点から、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することなどを目的として創設するもの。

見直しのポイント

- 次代の学術の担い手となる研究者の積極的な参画により、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することを目指す。
- 助成金額や研究期間等に応じて、二つの区分を設置。
 - ・「学術変革領域研究（A）」：新学術領域研究（研究領域提案型）の後継となる区分であり、研究領域を幅広く発展させる研究である「公募研究」をより充実。
 - ・「学術変革領域研究（B）」：次代の学術の担い手となる研究者が、より挑戦的かつ萌芽的な研究に短期的に取り組み、将来の発展的なグループ研究に つなげることを可能とする区分として新設。
- 各区分の目的等に応じた審査方式、評価方式を採用。
 - ・「学術変革領域研究（A）」：「公募研究」の審査において、審査の効率化と審査委員の負担軽減を図るため、2段階書面審査を採用。採択領域については、中間評価結果を次の応募の際に活用するため4年目に実施するとともに、フォローアップを2年目に実施。
 - ・「学術変革領域研究（B）」：応募金額を考慮し、応募者及び審査委員の負担軽減を図るため、書面及び合議審査により採択を決定。（ヒアリングは実施しない）

各区分の概要

学術変革領域研究（A）

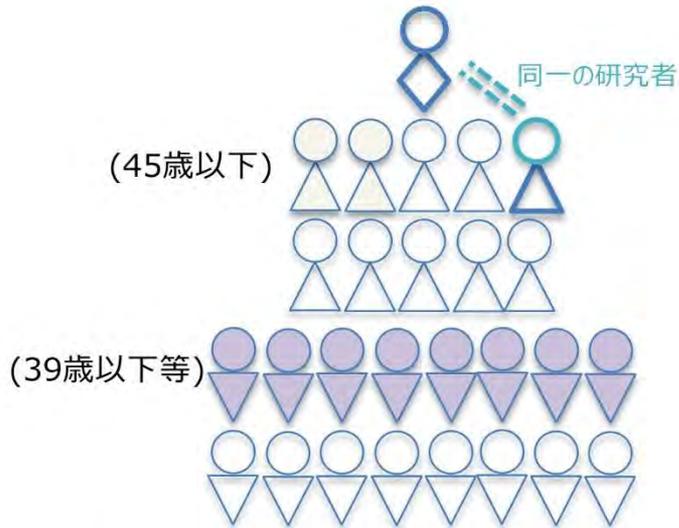
- 目的：多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究。
- 応募金額：5,000万円以上3億円まで（1研究領域／年）
 - ※ 真に必要な場合は応募上限額を超える申請も可能
- 研究期間：5年間
- 採択予定数：新学術領域研究と同数程度の採択を予定
 - ※ 新学術領域研究の採択数（令和元年度）18研究領域
- 領域構成：総括班・計画研究（※1）・公募研究（※2、3）
 - ※1 次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を研究代表者とする計画研究（総括班を除く）が、複数含まれる領域構成。
 - ※2 公募研究の総採択件数の半数程度が若手研究者（博士の学位を取得後8年未満又は39歳以下の博士の学位を未取得の研究者）となるよう若手研究者を積極的に採択。
 - ※3 採択目安件数が15件（従来は10件）、又は領域全体の研究経費の15%（従来は10%）を上回るよう設定。

学術変革領域研究（B）

- 目的：次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ（3～4グループ程度）が提案する研究領域において、より挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むことで、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、将来の（A）への展開などが期待される研究。
- 応募金額：5,000万円以下（1研究領域／年）
- 研究期間：3年間
- 採択予定数：（A）と同数程度の採択を予定
- 領域構成：総括班（※4）・計画研究（※5）
 - ※4 領域代表者は、次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）であること。
 - ※5 次代の学術の担い手となる研究者を研究代表者とする計画研究（総括班を除く）が、複数含まれる領域構成。

学術変革領域研究（A）の研究領域構成のイメージ

多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、**これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導する**とともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究。



- (1-1) 次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を研究代表者とする**計画研究（総括班を除く）が複数含まれること**
- (1-2) **公募研究**の総採択件数の半数程度が**若手研究者**（博士の学位を取得後8年未満又は39歳以下の博士の学位を未取得の研究者）となるよう**若手研究者を積極的に採択**
- (2) 5,000万円以上3億円まで（1研究領域/年）
※ 真に必要な場合は応募上限額を超える申請も可能

(3) 5年間

学術変革領域研究（B）の研究領域構成のイメージ

次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ（3～4グループ程度）が提案する研究領域において、**より挑戦的かつ萌芽的な研究**に取り組むことで、**これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導する**とともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、**将来の（A）への展開**などが期待される研究。

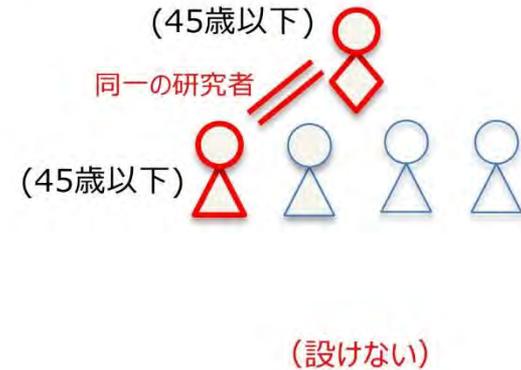
〔総括班〕
「研究代表者」= 領域代表者



(1) 領域構成

(2) 応募金額

(3) 研究期間



- (1-1) **次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を領域代表者**とすること
- (1-2) 計画研究は**4課題程度**とし、次代の学術の担い手となる研究者を研究代表者とする**計画研究（総括班を除く）が複数含まれること**
- (1-3) 公募研究は**設けない**

(2) **5,000万円以下**（1研究領域/年）

(3) **3年間**

「挑戦的研究」について 「挑戦的研究」の趣旨等

【「挑戦的研究」の基本的枠組み】

「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」
(平成28年12月20日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

(趣旨・対象)

- 「新しい原理や学理の発見・追求」、「学術の概念や体系の見直し」、「研究のブレークスルーをもたらすような、大きな発想の転換や斬新な方法論の導入」など、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究計画を支援。
- 種目の趣旨を踏まえた真に挑戦的な研究課題を支援する観点から、制度の趣旨に沿った質の高い研究課題を選び抜くため、科研費の全体目標である採択率30%の目標にとらわれず、採択件数を一定数に絞る。一方で挑戦的な研究計画の実行が担保されるよう、応募額を最大限尊重した配分を目指す。
- 「挑戦的研究」において期待される研究は当初立案した研究計画に従って遂行し得ない可能性が高いことを鑑み、その計画の柔軟な変更・実施を保証するため、学術研究助成基金による助成が適当。

(他種目との重複制限)

- 科研費の種目体系においては、「基盤研究」種目群と「挑戦的研究」とは、学術の体系や方向の変革・転換を通じた発展を実現していく上で相補的な関係となるべきであり、重複制限の考え方を一律に適用することは当を得ない。
- 「挑戦的萌芽研究」の新規応募は1万8,000件に上っており、重複制限を緩和した場合、審査負担が著しく増加する可能性がある。
- 平成29年度助成（平成28年9月公募）からの大幅な見直しは見送るが、これは新種目の導入時の措置であり、恒久的なものとするべきではない。実際の応募動向や科研費全体を通じた重複制限の在り方の検証を踏まえつつ、当該種目の特質や「基盤研究」種目群等との役割・機能分担を適切に反映したものに見直していくことが必要。

【令和2年度公募から開始】 挑戦的な研究の促進

〈現状認識〉

- **挑戦的研究（開拓）**については、比較的シニア層の応募・採択が多い傾向。これは、重複応募制限によって「基盤研究（S）」と「基盤研究（A）」にしか重複応募が可能でないことや、採択率が約10%と基盤研究種目等と比較して相当厳選されていることなどによるものと考えられる。
- **新興・融合領域の開拓を一層強化する観点から、挑戦的研究（開拓）に係る重複応募、重複受給制限の緩和について検討する必要があるのではないか。**



より幅広い研究者層の挑戦的で優れた研究を促進するため、

- **挑戦的研究（開拓）と基盤研究（B）について、重複応募及び重複受給を可能とする。**

挑戦的研究（開拓）は、令和2（2020）年度から基金化

	基盤研究（S）	基盤研究（A）	基盤研究（B）
挑戦的研究（萌芽）・新規	重複応募可	重複応募可	重複応募可
挑戦的研究（開拓）・新規	重複応募可	重複応募可	重複応募可
挑戦的研究（萌芽）・継続	応募可 （重複受給可）	応募可 （重複受給可）	応募可 （重複受給可）
挑戦的研究（開拓）・継続	応募可 （重複受給可）	応募可 （重複受給可）	応募可 （重複受給可）

※「挑戦的研究（開拓）」と「挑戦的研究（萌芽）」との重複応募は不可

※「若手研究」と「挑戦的研究（開拓）」もしくは「挑戦的研究（萌芽）」との重複応募は不可

【参考】令和2年度公募で行った重複応募制限等の緩和について(その2)

「挑戦的研究（開拓）」と「基盤研究（B）」との重複応募状況

速報値

応募	挑戦（開拓）の件数	他種目との重複件数	うち基盤研究(B)との重複件数	平均年齢
令和元年度	699	488	—	53.3歳
令和2年度	1,607	1,451	934	51.8歳

採択	挑戦（開拓）の件数	他種目との重複件数	うち基盤研究(B)との重複件数
令和元年度	81	55	—
令和2年度	148	97	65

※「特設審査領域」は除く ※複数種目に対して重複応募・採択の場合、延べ数で計上 ※他種目：特別推進研究、基盤研究（S・A）等

- 挑戦的研究（開拓）の応募件数は前年度の2倍以上に増加している。また、応募した研究者の平均年齢は低下している。
- 挑戦的研究（開拓）と基盤研究（B）との重複応募、重複採択者も確認できる。
- 「新興・融合領域の開拓を一層強化する観点から、より幅広い研究者層の挑戦的で優れた研究を促進する」という目的を踏まえた緩和措置について、一定の効果があったと考えられる。

経費の取扱いに関する事等について

- 以下の資料では、令和3年度公募に関係の深い「経費の取扱い」や関連種目の動向等を説明しております。

経費の取扱いに関すること①

「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」(令和2年1月23日)等に基づくもの

1. バイアウト制度の導入について

- ・「競争的研究費の直接経費から研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能とする見直し(バイアウト制度の導入)について」(令和2年5月22日研究振興局、科学技術・学術政策局、研究開発局、高等教育局申し合わせ)を踏まえ、**科研費においても令和3(2021)年度から研究代表者及び研究分担者の研究以外の業務の代行に係る経費の支出が可能**となる。

(従前)
講義等の教育活動等やそれに付随する事務等のため研究に時間を割けない



(令和3(2021年4月~))
直接経費から代行に係る経費(バイアウト経費)を支出し、研究以外の業務を代行要員に代行してもらうことが可能に

研究に専念
できる

バイアウト制度の導入により直接経費から研究以外の業務(※)の代行に係る経費の支出が可能となり、研究に専念できる環境が整備される。

※対象業務に該当するかどうか判断し難い場合は、以下までお問い合わせください。
文部科学省研究振興局振興企画課競争的資金調整室
e-mail: kenkyuhi@mext.go.jp 電話: 03-5253-4111(内線3828,4014)

1. バイアウト制度の導入について（つづき）

- 科研費では、令和3年度以降**ほぼ全ての研究種目**（以下参照）が**バイアウト制度の対象**となります。

【バイアウト制度の対象となる種目】

特別推進研究、学術変革領域研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（『学術研究支援基盤形成』は除く）、基盤研究、挑戦的研究（挑戦的萌芽研究を含む）、若手研究（若手研究（A・B）を含む）、研究活動スタート支援、特別研究促進費、国際共同研究強化（B）、帰国発展研究（国内の研究機関に所属した後に限る）

【バイアウト制度の対象とならない種目】

奨励研究、研究成果公開促進費、特別研究員奨励費、新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』、国際共同研究強化（A）（改称前の国際共同研究強化を含む）。ただし、国際共同研究強化（A）（改称前の国際共同研究強化を含む）は、必要に応じて「代替要員確保のための経費」を計上することができる。

- 令和2年度以前に採択された継続研究課題も対象。また、研究分担者がバイアウト経費を支出することも可能です。
- なお、バイアウト経費の支出を希望する場合は、所属する研究機関の構築した仕組みにのっとり、**研究機関と研究代表者（又は研究分担者）の合意に基づいて実施**することとなります。バイアウト経費を支出する場合は、以下（※）に留意しつつ、**研究計画調書の「その他」の費目に計上し、「事項」欄に必ず『バイアウト』という文言を記載**してください。

※ バイアウト制度は、研究代表者（又は研究分担者）の希望に基づき、当該研究課題に専念できる時間を拡充するための制度であることから、研究代表者（又は研究分担者）の希望の有無や、当該研究課題に専念できる時間の拡充状況（増加時間数など）等について経費の執行状況と合わせて確認する場合があります。その際、当該研究課題に専念できる時間の拡充が確認できないなど適切に支出されていない場合は当該経費の返還を求めることがありますので、各研究機関においては適切に運用してください。

2. 科研費により雇用される若手研究者の自発的な研究活動等の実施について

- 科研費被雇用者の若手研究者（※）のうち下記の条件を満たしている者は、各研究機関における必要な手続を経た上で、**雇用元の科研費の業務に充てるべき勤務時間において自発的な研究活動等を行うことが可能**です。
 - この場合には、新たに科研費の研究代表者として応募することができるほか、研究分担者になることもできます。
 - (1) 若手研究者本人が自発的な研究活動等の実施を希望すること
 - (2) 研究代表者等が、雇用元の科研費の推進に資する自発的な研究活動等であると判断し、所属研究機関が認めること
 - (3) 研究代表者等が、雇用元の科研費の推進に支障がない範囲であると判断し、所属研究機関が認めること（雇用元の科研費の研究課題に従事するエフォートの20%を上限とする）
- (※) 各年度4月1日時点において「40歳未満」又は「博士の学位取得後8年未満」の者であって、研究活動を行うことを職務に含む者。なお、科研費に応募する場合は、科研費の応募資格を満たすことが必要。

(従前)
自発的な研究活動等の実施には、雇用されているプロジェクト以外の雇用財源を確保することが必要



(令和2(2020)年4月～)
所属研究機関の承認が得られれば、雇用されているプロジェクトから人件費を支出しつつエフォートの一部(上限20%)を自発的な研究活動等に充当可能

若手研究者の
育成・確保

科研費により雇用される若手研究者の自発的な研究活動等の実施が可能に

3. 研究インテグリティに関すること

(背景)

- 「統合イノベーション戦略2020」において「研究コミュニティが、外国からの不当な影響による、我が国の卓越した研究活動や、開放性、透明性といった研究環境の基盤となる価値が損なわれる懸念を認識した上で、研究の健全性・公正性（「研究インテグリティ」）を自律的に確保していく取組が重要となることから、その問題の明確化及び対処するための方策について、研究コミュニティの間で共通の理解が図られるよう、報告書の作成等に向けた検討・働きかけを実施」とされている。
- また、「**外国資金の受入について、その状況等の情報開示を研究資金申請時の要件とし、政府資金が投入される研究を対象に透明性と説明責任を求めるとともに、虚偽申告等が判明した際の資金配分決定を取り消す**などの枠組みの具体策を検討し、所要の措置を講ずる。」とされている。

(科研費制度における取扱い)

- 外国からの資金により研究を実施している場合（受け入れ予定を含む）は、その状況等の情報開示を研究資金申請時の要件とします。

外国から資金を受け入れる場合も研究計画調書の「研究費の応募・受入等の状況」欄に必ず記載すること

公募に関する注意点等①

1. チェックリストの提出について

科研費による研究の実施にあたり、研究機関事務代表者はe-Radを利用し、以下2つのチェックリスト様式のダウンロードと提出を行ってください。

- ① 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく「取組状況に係るチェックリスト」
提出締切：令和2(2020)年9月28日(月)
- ② 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」
提出締切：令和2(2020)年12月7日(月)

チェックリストの提出がない場合には、当該研究機関に所属する研究者への交付決定を行いません。

2. 添付ファイル項目の上限ファイルサイズ見直しについて

- 今回の公募から、以下の研究種目については添付ファイル項目をアップロードする際の上限ファイルサイズを変更します。
- 引き続き、システムの安定性に留意しつつ、他の研究種目においても上限ファイルサイズの変更を検討していきます。

研究種目名		変更前	変更後
特別推進研究	研究計画調書	3MB	10MB
学術変革領域研究(A)	領域計画書	6MB	10MB
	研究計画調書	3MB	5MB
学術変革領域研究(B)	領域計画書	6MB	変更なし
	研究計画調書	3MB	5MB
基盤研究(s)	研究計画調書	3MB	5MB

公募に関する注意点等②

3. 公募期間について

公募開始

令和2(2020)年9月1日(火)

研究計画調書の提出(送信)期限

令和2(2020)年11月5日(木) 午後4時30分(厳守)

※いかなる理由であっても、上記の期限より後に提出(送信)された課題は受理しませんので、時間に十分余裕を持って提出(送信)してください。

※応募書類の提出(送信)後に、研究計画調書等の訂正、再提出等を行うことはできません。

4. 新型コロナウイルス感染症のスケジュールへの影響

公募開始時(9月1日)におけるスケジュールは次のとおりですが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、全体のスケジュールに変更が出る可能性があります。特に総合審査を実施する研究種目(※)については、スケジュールどおりに進まないことが予想されます。交付内定の時期が遅れる場合は、HP等で周知します。

特別推進研究※	基盤研究(S)※	基盤研究(A(※)・B・C)、 若手研究	挑戦的研究(開拓・萌芽)※
令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年4月 審査 令和3(2021)年4月下旬 交付内定	令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年5月 審査 令和3(2021)年6月下旬 交付内定	令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年3月 審査 令和3(2021)年4月上旬 交付内定	令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年6月 審査 令和3(2021)年6月下旬 交付内定
5月中旬 交付申請	7月中旬 交付申請	4月下旬 交付申請	7月中旬 交付申請
6月下旬 交付決定	7月下旬 交付決定	4月頃 審査結果開示	8月中旬 交付決定
7月頃 審査結果開示	8月中旬 送金(前期分)	6月下旬 交付決定	8月下旬 送金(前期分)
7月中旬 送金(前期分)	8月頃 審査結果開示	7月中旬 送金(前期分)	8月頃 審査結果開示
10月頃 送金(後期分)	10月頃 送金(後期分)	10月頃 送金(後期分)	10月頃 送金(後期分)

国際共同研究の改善・充実について

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

①「国際共同研究強化(A)」の改善

- 本種目の趣旨は、**科研費採択者が現在実施している研究計画について、国際共同研究を行うことでその研究を格段に発展させ、優れた成果を上げる**ことを目的とし、その結果、**国際的に活躍できる、独立した研究者の養成**にも資することを旨としたもの
- 本種目における36歳以上の下限は、振興会の海外特別研究員制度の以前の応募資格を参考としたものであるが、本種目では**「基盤研究」等の採択者であることを応募資格の要件**としていることから、今後は、**より多くの採択者に応募機会を与えられるよう、下限の年齢制限は設けない**ことが適当。

②「帰国発展研究」の改善

- 本制度は、**海外の研究機関等において独立した研究者を対象**としていることから、現在、応募資格において「ポストドクターを除く」としているが、**ポストドクターの中には自らの責任で自由に使用できる研究費を獲得している者などもおり**、「独立した研究者」や「ポストドクター」について、全ての分野において合意を得られるような明確な基準等を設けることは困難。
- 海外で活躍する優秀な若手研究者の応募機会を更に拡大するためには、**本種目の趣旨に合致している者であれば、「ポストドクター」という身分であったとしても、本種目への応募を認める**ことが適当。
- **自らの責任で自由に使用できる研究費を獲得していることは「独立した研究者」であることの一つの証左になり得る**と考えられることから、今後は、**本種目の研究計画調書において、研究代表者が現に獲得している研究費の状況等を記載させる**ことも必要。その際、国によって研究費の制度、応募資格等に違いがあることに留意し、審査において一律な判断をしないよう留意する必要がある。

③国際共同研究を推進するための改善

- KAKEN において国際共同研究に関する情報検索を容易に行えるようにし、国際共同研究の一層の推進に資するため、科研費により国際共同研究を行った場合の相手国や相手研究機関等の情報を記載する報告書の所定欄を工夫することが必要。

帰国発展研究(令和2(2020)年度公募)の見直し

R3公募
NEW!

○本種目は、海外の研究機関等において優れた実績を有する独立した研究者が、日本に帰国後すぐに研究を開始できるよう支援するもの。

※応募時点において帰国後の所属先が確定していなくても応募することが可能。

従来、応募資格を「応募時点において日本国外の研究機関に教授、准教授又はそれに準ずる身分（ポストドクターを除く）を有していること」としていた。



しかしながら、「ポストドクター」の中には自らの責任で自由に使用できる研究費を獲得するなど独立した研究者として活動している者もいることから、

・令和2(2020)年度公募(令和2年9月1日～11月5日)より、「ポストドクター」という身分であっても、本種目の趣旨に合致する場合には応募可能とする。

併せて、

- ・研究計画調書の記載内容の変更(海外の機関における自由に使用できる研究費の獲得実績等)
- ・「国際共同研究加速基金(帰国発展研究)の書面審査における評価基準等」において、帰国発展研究としての妥当性に係る要素を明確にするなど評価要素等の見直しを行っている。

【応募資格】

応募時点において、以下の3つ全てを満たしていること

- ① 日本国外の研究機関に教授、准教授又はそれに準ずる身分を有し、所属している者であること
- ② 現に日本国外に居住する日本国籍を有する者であること
- ③ 科研費応募資格を有していない者であること

【公募内容の概要】

- 応募総額 5,000万円以下
- 研究期間 3年以内

※帰国後、日本国内の研究機関に所属して科研費の応募資格を取得し、交付申請の手続を行った後に経費を執行することができます。また、応募資格取得後から令和4年4月30日まで交付申請を行うことができます。

2. 科研費審査システム改革等について

科研費審査システム改革等について

- 以下の資料では、平成30年度公募から実施している「科研費審査システム改革2018」について要点を説明しております。審査システム改革後の審査は既に3回実施してきたところですが、研究者の皆様に改革の趣旨、内容が十分理解されていない可能性もあります。このため、改革の内容をあらためてご確認いただくとともに、一部誤解もあったとされる研究計画調書：「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄等の取扱い及び審査におけるresearchmapの参照について説明しております。

「科研費審査システム改革2018」の概要

科研費の公募・審査の在り方を抜本的に見直し、
多様かつ独創的な学術研究を振興する

従来の審査システム（平成29年度助成）

最大400余の細目等で 公募・審査

細目数は321、応募件数が最多の
「基盤研究（C）」はキーワードにより
さらに細分化した432の審査区分で審査。

基盤研究（S）
基盤研究（A）
（B）
（C）
若手研究（A）
（B）

- ・ほとんどの研究種目で、細目ごとに同様の審査を実施。
- ・書面審査と合議審査を異なる審査委員が実施する2段階審査方式。

※「挑戦的萌芽研究」を発展・見直し、平成29年度公募から新設した「挑戦的研究」では、「中区分」を使用するとともに「総合審査」を先行実施。

「分科細目表」
を廃止

新たな審査システムへ移行

新たな審査区分と審査方式 平成30年度助成（平成29年9月公募）～

大区分（11）で公募・審査 中区分を複数集めた審査区分

基盤研究（S）

中区分（65）で公募・審査 小区分を複数集めた審査区分

基盤研究（A）

挑戦的研究

小区分（306）で公募・審査 これまで醸成されてきた多様な 学術に対応する審査区分

基盤研究（B）
（C）

若手研究

「総合審査」方式－より多角的に－

個別の小区分にとられることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。
※基盤研究（S）については、「審査意見書」を活用。

- ・特定の分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。
- ・改善点（審査コメント）をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。

「2段階書面審査」方式－より効率的に－

同一の審査委員が電子システム上で2段階にわたり書面審査を実施し、採否を決定。

- ・他の審査委員の評価を踏まえ、自身の評価結果の再検討。
- ・会議体としての合議審査を実施しないため審査の効率化。

注）人文社会・理工・生物等の「系」単位で審査を行っている大規模研究種目（「特別推進研究」、「新学術領域研究」）の審査区分は基本的に現行どおり実施する。審査方式については、当該種目の見直しの進捗を踏まえて逐次改善する予定。

※詳しくは、文科省HPをご確認ください。https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1380674.htm

審査区分について

「科学研究費助成事業の審査システム改革について」(平成29年科学技術・学術審議会学術分科会)(抄)

※報告書全体は、https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/01/19/1367698_01.pdf を参照

3 審査システム改革の内容等

(1)改革の内容

現行の「分科細目表」は、本来科研費の審査区分を示すものであり、学問分野の体系化を趣旨としたものではなく、また、大学の学科・専攻や学会の分野などに基づいているものでもない。この点を明瞭にするために、現行の「分科細目表」を廃止し、新たに「審査区分表」を作成することとした。

「審査区分表」は、応募者が審査を希望する関連分野を柔軟に選択できるよう、研究種目に応じた審査区分(「小区分・中区分・大区分」)を設定し、また、審査区分と一体的に運用している審査方式についても研究種目の特性に応じた新しい方式を採用することとした。以下、これら審査区分および審査方式の見直しや関連措置を含め、平成30年度助成以降の新審査システムへの移行に係る取組全体を「科研費審査システム改革2018」と呼び、その内容を示す。

なお、「審査区分表」は、学術研究の動向を把握して、5年程度での定期的な見直しを念頭に置きつつ、軽微な内容については柔軟に対応を進めていくこととする。

①「基盤研究(B・C)」等の審査区分(小区分)及び審査方式について

・「基盤研究(B・C)」、「若手研究」のように現行の審査システムにおいて、1細目当たりの応募件数が多い研究種目については、学術研究の多様性に配慮し、これまでに醸成されてきた多様な学術研究に対応する審査区分として306の小区分を設定する。その際、小区分が固定化されたものではなく、学術研究の新たな展開や多様な広がりにも柔軟に対応できるよう、それぞれの小区分は、「〇〇関連」とし、応募者の選択の自由を確保する。

・小区分には、応募者が小区分の内容を理解する助けとなるよう、「内容の例」を付す。各小区分の「内容の例」は、概ね10個程度とするが、本来的には各小区分の内容は今回の「内容の例」として列記されたものに限定されるものではなく、そのことを示すため、「内容の例」として列記された事項の後に「など」を加える。

・小区分では「2段階書面審査」により採否を決定する。「2段階書面審査」においては、電子システムを利用して、書面審査を2段階にわたって行う。1段階目においては、審査委員全員が全ての応募研究課題を審査する。この1段階目の審査結果に基づき採否のボーダーライン付近となった研究課題のみを対象として、同一の審査委員が2段階目の審査を行い、改めて評点を付す。その際、当該小区分の全ての審査委員の1段階目の審査意見等を参考とする。

審査区分についてのポイント

「審査区分」の設定内容を全面的に見直し

- 従来の「分科・細目表」を廃止。全体的に「大括り化」した「審査区分表（大・中・小区分による構成）」を新設。
- 「審査区分」は、
 - 学問分野の体系化を趣旨としたもの、
 - 大学の学科・専攻や学会の分野などに基づいているもの、のいずれでもない。
- 審査区分は固定化されたものでなく、学術研究の新たな展開や多様な広がりにも柔軟に対応できるよう、小区分は「○○関連」、中区分は「○○および関連分野」、大区分は分野名を付さずに記号（A～K）で表記し、応募者の選択の自由を確保。
- 「キーワード」は、「内容の例」に変更。10個程度を限定列記。

研究種目により適用する「審査区分」が異なる

- 研究者は、「自らが応募する研究種目」に対応する「審査区分」を選択。
- 審査委員の選考は、各「審査区分」への対応ができることを考慮。
- 審査委員に対し、「審査委員から見て審査区分の選択が不適切と思われる場合であっても、それだけを理由に評価を下げない」よう要請。

※詳しくは、文科省HPをご確認ください。

(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/01/19/1367698_01.pdf)

審査区分表の例

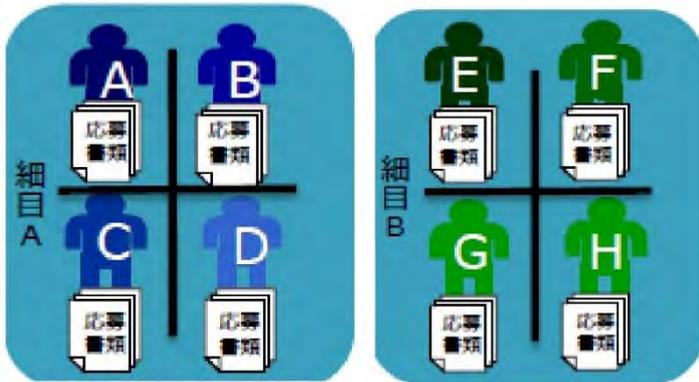
※審査区分表（小区分一覧）の例

小区分	内容の例	対応する中区分、大区分	
		中区分	大区分
64030	〔環境材料およびリサイクル技術関連〕	64	K
	循環再生材料、有価物回収、分離精製高純度化、環境配慮設計、リサイクル化学、グリーンプロダクション、ゼロエミッション、資源循環、再生可能エネルギー、バイオマス利活用、など		
64040	〔自然共生システム関連〕	64	K
	生物多様性、保全生物、生態系サービス、自然資本、生態系影響解析、生態系管理、生態系修復、生態工学、地域環境計画、気候変動影響、など		
64050	〔循環型社会システム関連〕	64	K
	物質循環システム、物質エネルギー収支解析、低炭素社会、未利用エネルギー、地域創生、水システム、産業共生、ライフサイクル評価、統合的環境管理、3R社会システム、など		
64060	〔環境政策および環境配慮型社会関連〕	64	K
	環境理念、環境法、環境経済、環境情報、環境教育、環境社会活動、環境マネジメント、合意形成、安全安心、社会公共システム、持続可能発展、など		
90010	〔デザイン学関連〕	1, 23, 61	A, C, J
	情報デザイン、環境デザイン、工業デザイン、空間デザイン、デザイン史、デザイン論、デザイン規格、デザイン支援、デザイン評価、デザイン教育、など		
90020	〔図書館情報学および人文社会情報学関連〕	2, 62	A, J
	図書館学、情報サービス、情報組織化、情報検索、情報メディア、計量情報学、情報資源、情報倫理、人文情報学、社会情報学、デジタルアーカイブス、など		

【旧方式】「2段審査」方式(分科細目表)

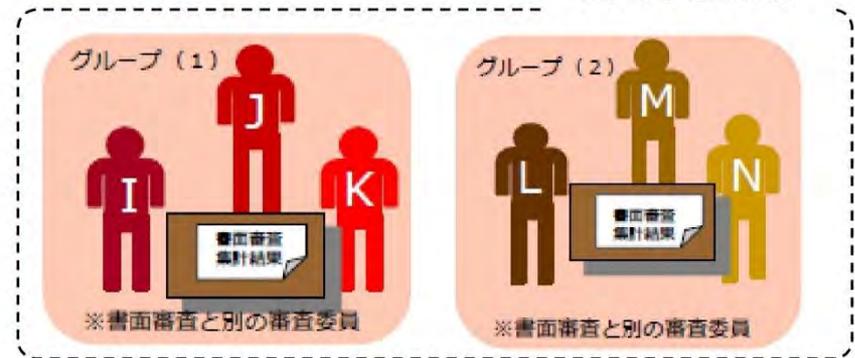
書面審査(細目ごと)

1 課題当たり、4名又は6名の審査委員が書面審査を電子システム上で個別に実施。



合議審査(〇〇小委員会)

3～5名程度の審査委員が書面審査結果に基づき、分科ごと(人社系は細目ごと)のグループで合議審査を実施し採否を決定。<〇〇小委員会>



書面審査を行う審査委員と合議審査を行う審査委員とが別々に設けられていた。



「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できる審査方式ではなかった。

また、合議審査において、書面審査の評点に基づく合議となるため、実質的な議論にはなりにくかった。

① 総合審査 (中区分、大区分)

評点分布等については、参考資料集をご覧ください。

書面審査 (中区分、大区分ごと)

1 課題当たり、より幅広い分野にわたって配置された複数名の審査委員が電子システム上で書面審査 (相対評価) を実施。



合議審査 (中区分、大区分ごと)

書面審査の集計結果をもとに、書面審査と同一の審査委員が合議によって多角的な審査を実施し、採否を決定。



平成30年度公募からの「総合審査」方式は、書面審査と合議審査を同一の審査委員が実施



「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できる審査方式へと変更。

また、合議審査において、書面審査の点数にこだわらず検討し、全審査委員が研究計画調書に基づき、対等な立場で議論することを求めている。

書面審査の点数にこだわらず検討し、全審査委員が研究計画調書に基づき、対等な立場で議論ができる「総合審査方式」は理想的な審査方式である。

一方、全ての研究種目において「総合審査方式」を導入することは、審査委員負担の増大、スケジュールの長期化、審査運営上のコスト増大など、様々な問題点から困難。

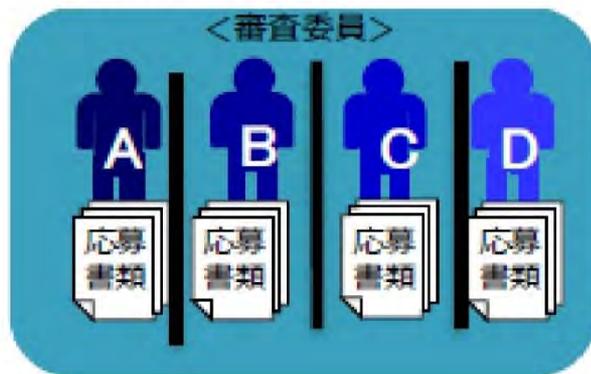
そこで、「総合審査方式」同様、他の審査委員の意見を参照できる「2段階書面審査方式」も導入。

②2段階書面審査方式 (小区分)

評点分布等については、参考資料集をご覧ください。

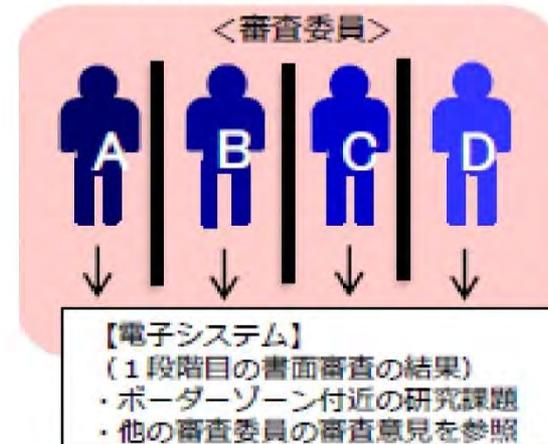
1段階目の書面審査 (小区分ごと)

1課題当たり、「小区分」ごとに配置された複数名の審査委員が電子システム上で書面審査を(相対評価)を実施。



2段階目の書面審査 (小区分ごと)

1段階目の書面審査の集計結果をもとに、他の委員の審査意見も参考に電子システム上で 2段階目の評点を付し、採否を決定 (審査委員は1段階目と同一)。



「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できる審査方式へと変更。

【科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会等における議論の概要】

(問題意識等)

- 「研究業績」欄に必ずしも研究課題とは関係のない業績を不必要に連ねたりする可能性など、審議過程において応募、審査の本来の在り方を歪めかねない実態があるのではないか。
- 「研究業績」欄が、応募者にとって「できるだけ多くの業績でスペースを埋めなければ審査において不利になるのではないか。」といった誤った認識を与えている可能性があるのではないか。
- 研究代表者及び研究分担者の分担内容に応じた研究遂行能力を評価するために研究業績等の確認は必要だが、研究業績等の「書かせ方」については一考の余地がある。
- 科研費の審査に関し、あたかも業績偏重主義であるかのような認識を応募者その他に与える可能性については、できるだけ是正を試みるべきであり、そのための工夫を考慮する必要がある。
- 「研究業績」欄を引き続き活用する場合にあっては、応募者が研究遂行能力の評価に必要な情報を適切に記載できるような配慮が必要。(単に「欄を埋める」ことが重要であるかのような印象を払拭する必要がある。)
- 研究業績等による研究遂行能力の評価について、応募者、審査担当者の双方に正しい認識を醸成するよう努めることが必要。

研究計画調書に記載する研究業績については、当該研究計画に対する研究遂行能力を有しているか確認するためのものであることを明確化するため、審議会等による議論を経て、平成31（2019）年度公募より、基盤研究等における研究計画調書の「研究代表者および研究分担者の研究業績」欄を「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄に変更

3 応募者の研究遂行能力及び研究環境

「基盤研究（C）の研究計画調書「3 応募者の研究遂行能力及び研究環境」より抜粋」

本欄には応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

研究計画調書に留意事項を表示し、研究業績を書くことができることを明確にし、論文を引用する場合の記載方法の例を記載。

※留意事項

1. 研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
2. 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。
例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など。
3. 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。
4. 本留意事項（斜体の文書）は、研究計画調書の作成時には削除すること。

競争的資金における使用ルール等の統一について（抜粋）

（平成27年3月31日 平成29年4月20日改正 競争的研究費に関する関係府省連絡会申し合わせ）

8 電子申請等の促進

（3）国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するresearchmap と府省共通研究開発管理システム等の連携を促進するため、研究代表者及び研究分担者の研究業績の提出を求める事業においては、各資金制度の応募要領等にresearchmap への登録及び入力を推奨する文章を掲載し、研究者等に利用を促すとともに、研究業績として、（中略）researchmap の登録情報の活用を促すこと。なお、researchmap の更なる活用の方途について、今後も検討を進める。



令和3（2021）年度 科学研究費助成事業 科研費 公募要領（抜粋）

5 研究者情報のresearchmapへの登録について

researchmapは日本の研究者総覧として国内最大級の研究者情報データベースであり、登録した業績情報は、インターネットにより公開が可能であるほか、e-Radや多くの大学の教員データベース等とも連携しており、政府全体でも更に活用していくこととされています。

また、**科研費の審査において、researchmap及び科学研究費助成事業データベース（KAKEN）の掲載情報を必要に応じて参照する取扱いとします**ので、researchmapへの研究者情報の登録をお願いします。なお、審査においてresearchmapの掲載情報を参照するに当たっては、researchmapに登録されている「研究者番号」により検索を行いますので、researchmapへ研究者情報を登録する際には、必ず「研究者番号」を登録してください。

<researchmapの具体的な取扱い>

- 科研費の審査において、研究遂行能力を有しているかについては研究計画調書で判断します。
- 審査の際に審査委員が必要に応じて参照することができますが、従前よりも審査の際に審査委員がresearchmapを参照しやすくなることから、必要な情報を積極的に登録・更新してください。
- researchmapは参考情報として参照するため、researchmapの更新・登録自体が直接的に採否に影響することはありません。
- なお、researchmapの情報は必ずしも審査に必要な情報のみではないため、審査に必要な情報までは活用しないよう審査委員に周知しています。

採択された研究課題に関する情報について

○科研費では、採択された研究課題に関する情報（研究課題名・研究者氏名・所属機関・交付予定額等）については、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号）第5条第1号イに定める「公にすることが予定されている情報」であるものとします。

これらの情報については、報道発表資料及び国立情報学研究所の科学研究費助成事業データベース（KAKEN:<https://kaken.nii.ac.jp>)等により公開します。

※KAKENの画面イメージ図



KAKEN 研究課題をさがす
科学研究費助成事業データベース

科学研究費助成事業データベースは、文部科学省および日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業により行われた研究の当初採択時のデータ（採択課題）、研究成果の概要（研究実施状況報告書、研究実績報告書、研究成果報告書概要）、研究成果報告書及び自己評価報告書を収録したデータベースです。科学研究費助成事業は全ての学問領域にわたって幅広く交付されていますので、本データベースにより、我が国における全分野の最新の研究情報について検索することができます。

フリーワード 検索

全文検索

令和元年度の交付決定データ（一部）の収録（2019年08月05日）
令和元年度の交付決定データ（一部）の収録（2019年08月05日）

科研費に応募される研究者は、上記を踏まえた上で応募してください。

3. 科研費の使用等に関する 主な改善点・変更点について

令和2(2020)年度の科学研究費助成事業(科研費)の変更点等について

1. 科研費使用ルール(補助条件及び交付条件等)の主な変更点について

(1) 合算使用の制限の緩和について

・令和2(2020)年度からは令和元(2019)年度以前に可能としていた合算使用の例に加えて、下記のとおり、一定要件の下で、**科研費の複数の研究課題の直接経費同士を合算して使用することを可能とする。**

- ① 科研費の直接経費の合算使用時に、各経費を支出する補助事業者(研究代表者又は研究分担者)が同一の研究機関に所属していること
- ② 研究機関は、合算使用を行う前に、各補助事業者の負担額の割合及びその根拠等について、各補助事業者を確認し、書面により明らかにすること

(2) 科研費で購入した図書の寄付に関する取扱いの変更について

・令和2(2020)年度からは、研究上の支障がなくなる時までの図書の寄付の留保を、購入金額によらず可能とする。

(3) 科研費で購入した設備等の所属研究機関の異動に伴う移設の取扱いの変更について

・従来、補助事業者が所属研究機関を異動する際に、科研費で購入した設備、備品又は図書(以下「設備等」という。)を移設して使用することを希望する場合、研究期間内においては、補助条件等に基づき当該設備等を補助事業者に戻還して移設させることとするとともに、研究期間終了後においては、各研究機関の定めに基づいて取り扱うこととしていた。

令和2(2020)年度からは、異動後の研究環境の整備を円滑に進め研究を一層加速させるため、また、昨今の研究者の流動性を踏まえ、**研究期間内に加えて、研究期間終了後5年間は最低限、補助事業者の希望に応じて、科研費で購入した設備等を補助事業者に戻還して移設させることとする。**

(令和2(2020)年度以降に購入した設備等に限る。)

2. 科研費電子申請システムによる交付内定通知について

- 令和2(2020)年4月以降は、書面による通知に代えて、所属研究機関担当者向けに、全ての内容を科研費電子申請システムにより通知
- 対象は、科研費電子申請システムに対応している研究種目とし、それ以外の交付内定通知は、従前どおり書面により通知

【※詳しくは、日本学術振興会ホームページをご確認ください。】

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06_jsps_info/g_200316/index.html

(令和2年3月19日付け事務連絡)

海外渡航時における科研費の中断・再開制度について

若手研究者等が海外渡航によって科研費の研究を断念することがないように、海外渡航期間に応じて自由に**科研費の中断・再開を可能とする制度改善を平成31年度助成から導入**することで、**帰国後の研究費を保障**し、若手研究者等の海外での研さん等を促進する。

1. 対象

- 海外における「研究滞在等」を対象とし、研究機関における研究活動への従事のほか、学位取得のための留学等を広く含む。
- 海外渡航に伴って退職する場合等、日本の研究機関に所属しないこととなる場合も制度活用の対象。

2. 手続等

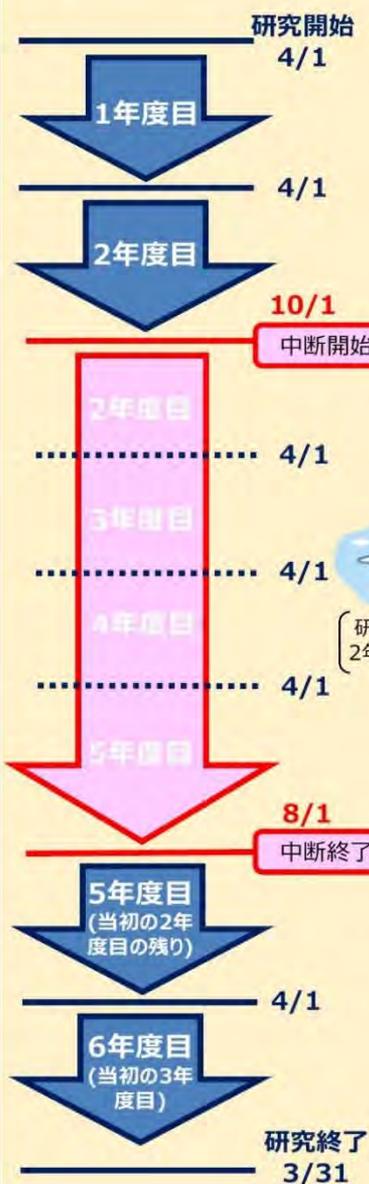
- 研究者は、中断前に所属している研究機関を通じて、研究滞在等の事由、渡航予定期間、研究再開予定時期等について日本学術振興会に申請し、中断の承認を得る。
- 中断期間は**原則として1年以上**。
(科研費では現在も1年未満の中断の場合は研究を継続可能。本人の希望等に応じて**1年未満の中断の場合も柔軟に制度活用が可能。**)
- 中断期間は**1度の申請につき最大5年間**とし、その後の計画の変更に応じて、**中断期間の延長**や別の事由による**再度の申請が可能**。
- 日本学術振興会から、中断の承認と併せて中断期間の間有効な「条件付交付内定」を行うことで、**帰国後に直ちに科研費を使用することが可能**。(再開の際には、大学等の科研費に応募可能な日本の研究機関に所属することが必要。)

【制度活用のイメージ】 研究期間3年間で、2年10ヶ月の中断により3年間の研究期間延長を行う場合



海外における研究滞在等による科研費の研究中断 手続きのイメージ

研究期間3年間で、2年10ヶ月の中断が生じる場合



【研究開始】

- ・日本学術振興会より研究機関を通じて研究代表者に対し交付内定
- ・研究代表者は研究機関を通じて「交付申請書」を日本学術振興会に提出
- ・日本学術振興会より研究機関を通じて研究代表者に対し交付決定

【研究中断開始】

- ・研究中断の前に、研究代表者より研究機関を通じて「**研究中断承認申請書**」(※)を日本学術振興会に提出
- ・日本学術振興会より研究代表者に対し「**条件付交付内定通知**」を通知 (交付決定前であれば「交付申請留保届」の提出を受けて「条件付交付内定通知」を通知)
- ・研究代表者は研究機関を通じて「実績報告書」を日本学術振興会に提出
- ・日本学術振興会より研究機関を通じて研究代表者に対し額の確定通知、未使用額の返還

(※) 1年以上研究中断する者、または海外渡航のため応募資格を喪失する者が提出。
 応募資格を有したままで1年未満の研究中断をする者は、「中断承認申請書」を提出することなく、
 研究再開時に「研究期間の延長」申請を行うことにより、研究期間の延長が可能。

【研究中断中】

- ・毎年度の4月に日本学術振興会より「**条件付交付内定通知**」を通知
- ・研究代表者は研究中断中に各種変更 (中断期間の変更、研究代表者の連絡先の変更等)が生じたら「**変更届**」を日本学術振興会に提出。(中断期間の変更の場合は、日本学術振興会は「変更届」に基づき改めて「条件付交付内定通知」を通知)

【研究中断終了】

- ・研究代表者は研究機関を通じて「**再開届**」を日本学術振興会に提出
- ・研究代表者は研究機関を通じて「交付申請書」を日本学術振興会に提出
- ・日本学術振興会より研究機関を通じて研究代表者に対し交付決定

【研究終了】

- ・研究代表者は研究機関を通じて「実績報告書」を日本学術振興会に提出
- ・日本学術振興会より研究機関を通じて研究代表者に対し額の確定通知
- ・研究代表者は研究機関を通じて、研究期間全体に係る「研究成果報告書」を日本学術振興会に提出

4. その他連絡事項

審査委員候補者データの確認・更新について

「審査委員候補者データベース」に登録されているデータの確認・更新は、適切な審査委員を選考するために大変重要です。

例年4月頃、所属機関を通じて書面にてID・パスワードを送付し、研究者ご本人にデータの確認・更新の依頼をしております。**通年で更新が可能**ですので、「審査委員候補者情報登録システム」(<https://www-shinsaiin.jsps.go.jp>)にログインして、**情報の確認・更新をお願いします。**

特に、「**①審査可能区分**」及び「**②内容の例**」は、審査委員を選考する上で大変重要な情報ですので、必ず確認・更新してください。

【確認・更新をお願いする事項】

1. 基本情報（所属機関、職名等）

2. 「審査可能区分」及び「内容の例」

- ・ 小区分：最大3つ（2つは必須）
※小区分については「内容の例」も必ず登録してください。
- ・ 中区分：最大4つ（1つは必須）
- ・ 大区分：最大3つ（1つは必須）

3. 主な発表論文、受賞歴

4. 競争的資金の獲得状況

科研費に関するご意見・ご要望受付窓口

独立行政法人日本学術振興会において、科研費関連業務について研究者等の意見・要望を取り入れた改善を進めるため、科研費ホームページ上に「科研費に関するご意見・ご要望受付窓口」を設置しています。窓口いただいた意見を踏まえ、今後も制度改善につなげていく予定です。

【入力フォームイメージ】

意見区分	内容
1	科研費制度について
2	公募について(公募要領、研究計画調書の様式等)
3	審査・評価について
4	科研費の使用、各種手続きについて
5	その他

科研費に関するご意見・ご要望受付窓口

日本学術振興会科研費ホームページ：
<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>
 (日本学術振興会科研費ホームページに設置した受付窓口のバナーから、専用フォームにリンク)

意見提出窓口は日本学術振興会HPのトップページに設置しています。

(参考) 科研費を含む競争的資金全般に関する意見・要望については、内閣府において受付窓口を開設しています。
 内閣府URL：<https://form.cao.go.jp/cstp/opinion-0098.html>

本資料に関する質問について

説明資料等に関するご質問については、まずは以下に掲載しているFAQをご確認ください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/38_jigyouseitsumekai/2020_siryou.html

FAQで解決しない場合は、次ページの問い合わせ先までご連絡ください。

多く寄せられたご質問等については、FAQを追加掲載する予定です。

問合せ先(公募の内容に関すること)

日本学術振興会が公募を行うもの

- ・ **公募要領全般**

研究助成企画課

電話 03-3263-4796

- ・ **特別推進研究、基盤研究 (S)**

研究助成第二課

電話 03-3263-4254 (特別推進研究担当)

電話 03-3263-4388 (基盤研究 (S) 担当)

- ・ **基盤研究 (A・B・C)、若手研究**

研究助成第一課

電話 03-3263-4724,1003,0996,4758

- ・ **挑戦的研究 (開拓・萌芽)**

研究助成企画課

電話 03-3263-0977

- ・ **奨励研究**

研究助成第一課

電話 03-3263-0976,0980,1041

- ・ **国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)**

研究助成企画課

電話 03-3263-4927

文部科学省が公募を行うもの

- ・ **新学術領域研究 (研究領域提案型)**

- ・ **学術変革領域研究**

研究振興局 学術研究助成課

科学研究費第一・二係

電話 03-6734-4094

**公募に関する問い合わせは、
研究機関を通じて行ってください。**

○令和3年度科研費への応募について

2021年度 科研費への応募について

1. 応募予定調査について

2021年度科研費への応募を予定されている方は、Google Classroom「科学研究費助成事業 制度説明会」クラスにて、授業(2021年度 科研費への応募について)を作成します。この授業の中の『科研費応募予定調査フォーム』より回答を送信してください。【URL】 <https://forms.gle/UAXLuDVmKq7Yxu8M9>

提出期限は10月2日(金)です。

2. 応募書類の送信(提出)方法

『科研費応募予定調査フォーム』の回答を送信した方は、次の要領で関係書類を送信(提出)してください。

1)送信(提出)方法

「科研費電子申請システム」において、次の2)の応募書類を作成後、「確認完了・送信」ボタンを押してください。なお、「確認完了・送信」ボタンを押しても日本学術振興会に直接応募書類が送信されることはありません。(※学事センターにおいて応募書類の内容を確認のうえ、学内決裁を経たのちに日本学術振興会に送信します。)

なお、応募書類送信(提出)後の修正、校了等の手続きにつきましては、学事センターにおいて応募書類の内容を確認する際に別途ご案内いたします。

2)送信(提出)書類

研 究 … 研究計画調書(電子申請システム入力後に出力した応募情報+応募内容ファイル)
研究成果公開促進費 … 計画調書
その他(各応募種目で必要な応募カードや見積書など)

3)送信(提出)期限

2020年10月8日(木)15:00まで

(※学内決裁手続等に日数を要しますので、期限厳守にご協力願います。)

4)留意事項

応募書類の作成および送信(提出)は、科研費電子申請システムで行います。詳細は日本学術振興会ホームページ(<https://www.jsp.go.jp/j-grantsinaid/index.html>)を参照してください。

○科研費電子申請システムの操作方法について

1. 提出する応募書類について
2. 応募書類の手続き期限等について
3. 操作手引き等の入手方法について
4. 研究機関が行う手続きについて(※省略)
5. 研究代表者が行う手続きについて
6. 研究分担者が行う手続きについて

※本資料における科研費電子申請システムの画面は開発中のものです。
実際の画面とは異なる場合があります。

1. 提出する応募書類について

○応募書類の構成について

科研費の応募書類(研究計画調書)は、「Web入力項目」と「添付ファイル項目」の2つで構成されます。

- ・Web入力項目

研究課題名や応募額、研究組織などの研究課題に係る基本データを、研究代表者が科研費電子申請システムにより、Web上で入力する部分

- ・添付ファイル項目

「研究目的、研究方法」、「着想に至った経緯」などの研究計画の内容を、Wordファイルに入力する部分

※必ず今年度の様式を使用してください。

科研費電子申請システムにおいてWeb入力項目を入力するとともに、Word形式又はPDF形式の添付ファイル項目をアップロードして処理を進めると、研究計画調書(PDFファイル)が作成されます。

2. 応募書類の提出期限等について(1)

日 時	研究代表者が行う手続	研究機関が行う手続
<p>令和2(2020)年 9月1日(火) 公募開始</p> <p>学振締切 午後4時30分 提出期限(厳守)</p>	<p>①応募書類を作成 (研究機関から付与されたe-RadのID・パスワードにより、科研費電子申請システムにアクセスし作成)</p> <p>【必要に応じて行う手続】 ②研究組織に研究分担者を加える場合の手続</p> <p>③所属する研究機関に応募書類を提出(送信) (当該研究機関が設定する提出(送信)期限までに提出(送信))</p> <p>⑦応募書類の提出(送信)</p>	<p>【必要に応じて行う手続】 ①e-Rad運用担当からe-Radの研究機関用のID・パスワードを取得 (既に取得済みの場合を除く。) ※ID・パスワードの発行に2週間程度必要。 ②e-Radへの研究者情報の登録等 ③研究代表者にID・パスワードを発行 (既に発行済みの場合を除く。)</p> <p>【必要に応じて行う手続】 ④所属する研究者が、研究分担者となることを承諾</p> <p>⑤「事務局(学事センター)より提出」に関するガイドラインに基づく「取組状況に係るチェックリスト」の提出 提出期限：9月28日(月)</p> <p>⑥「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」の提出 提出期限：12月7日(月)</p> <p>応募書類の提出(送信) 10月8日(木)まで</p>

2. 応募書類の提出期限等について(2)

○応募までの流れ(研究機関)

1. 【必要に応じて】研究者の科研費応募資格を確認後、e-Radに「科研費応募資格有り」として研究者を登録し、e-RadのログインIDとパスワードを付与
2. ・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」の提出
提出(送信)期限は令和2(2020)年12月7日(月)(e-Radによる提出)
・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく「取組状況に係るチェックリスト」の提出
提出(送信)期限は令和2(2020)年9月28日(月)(e-Radによる提出)
※各チェックリストの提出がない場合には、当該研究機関に所属する研究者への交付決定を行いません。
3. 【必要に応じて】所属する研究者が研究分担者となることについて、研究機関として承諾
4. 研究者から提出(送信)された応募書類(研究計画調書)を確認し、日本学術振興会へ提出(送信)
提出(送信)期限は令和2(2020)年11月5日(木)午後4時30分(厳守)
※いかなる理由であっても、上記の期限より後に提出(送信)された応募書類は受理しません。
※提出(送信)後に、研究計画調書等の訂正、再提出等を行うことはできません。

2. 応募書類の提出期限等について(3)

○「体制整備等自己評価チェックリスト」及び 「取組状況に係るチェックリスト」の提出期限について

科研費による研究の実施に当たっては、以下2点の提出が必要となります。

- ① 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に
基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」 (文部科学省研究振興局振興企画課競争的資金調整室
令和2年4月1日付通知)
提出期限 : 令和2(2020)年12月7日(月)
提出先 : 文部科学省 研究振興局 振興企画課 競争的資金調整室
- ② 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく
「取組状況に係るチェックリスト」 (文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課研究公正推進室
令和2年3月19日付依頼)
提出期限 : 令和2(2020)年9月28日(月)
提出先 : 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 研究公正推進室

上記チェックリストのいずれか、あるいは両方が提出されていない場合は、
当該研究機関に所属する研究者への交付決定を行いません。

提出方法 : e-Radによる提出(送信)

※科研費電子申請システムによる提出ではありません。

2. 応募書類の提出期限等について(4)

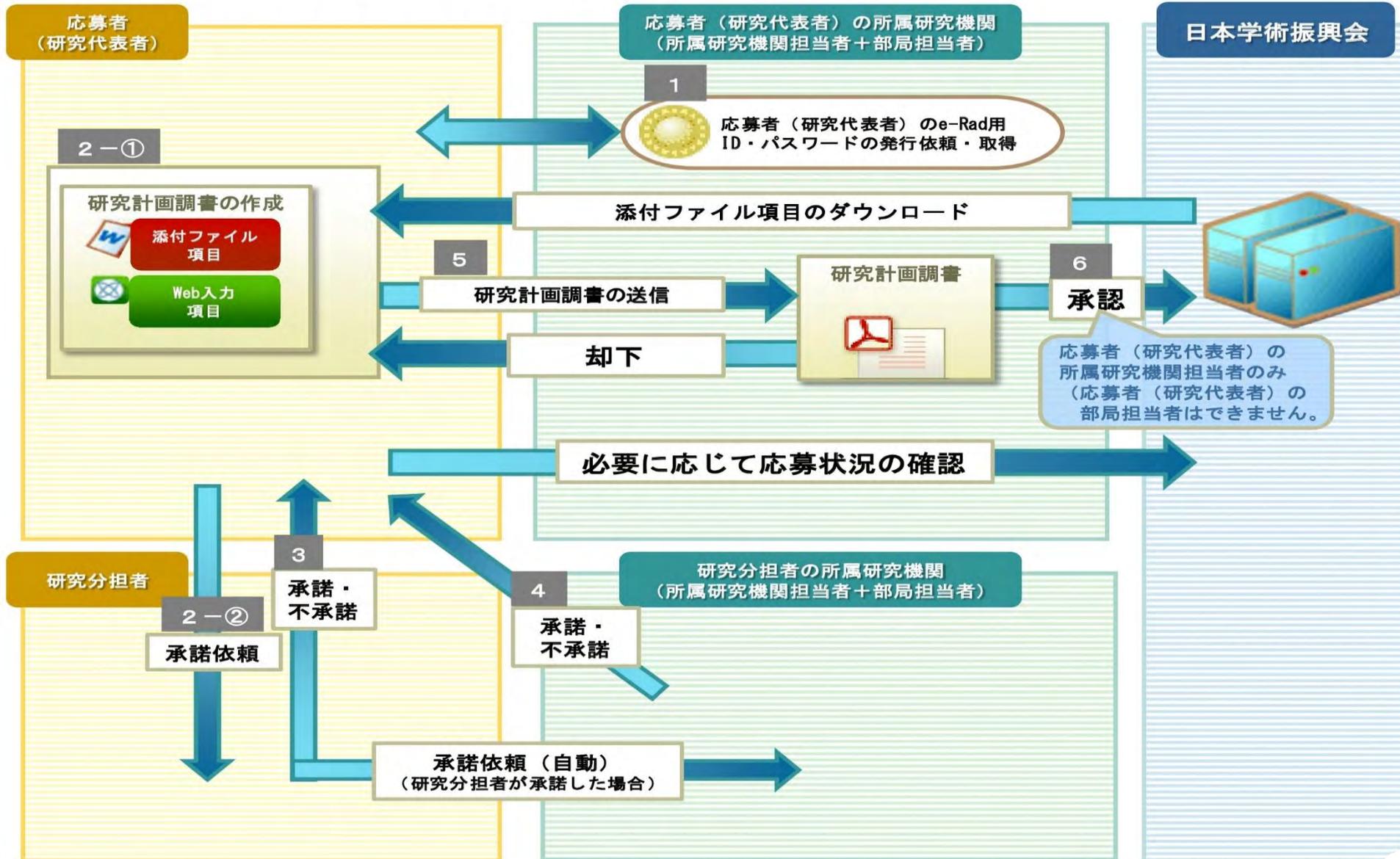
○応募までの流れ(応募者)

(日本学術振興会公募要領P21～P43)

1. 様式を日本学術振興会のホームページからダウンロードし、添付ファイル項目を作成
2. 科研費電子申請システムにログインしてWeb入力項目を入力するとともに、Word形式又はPDF形式の添付ファイル項目をアップロードして応募書類(研究計画調書)を作成
3. 【必要に応じて】科研費電子システムを通じ、研究分担者となることについて承諾を取得
4. 所属する研究機関が指定する期日までに、科研費電子申請システム上で応募書類(研究計画調書)を提出(送信)

2. 応募書類の提出期限等について(5)

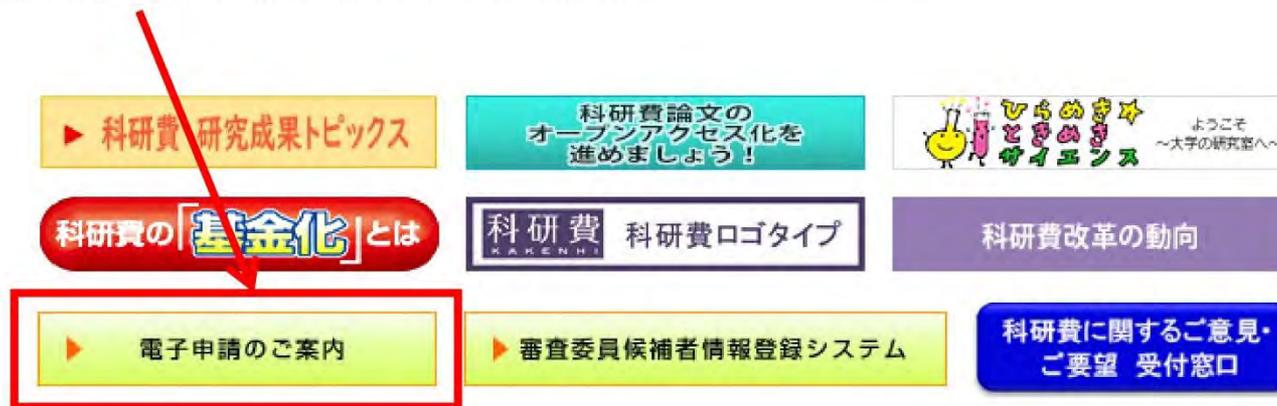
○電子申請手続の概要



3. 操作手引き等の入手方法について(1)

- ① 日本学術振興会科学研究費助成事業ホームページの
〔電子申請のご案内〕をクリックします。

応募者
機関担当者
共通



■ 新着情報

- ② 〔科学研究費助成事業〕をクリックします。



電子申請システムの利用方法に関するお問い合わせ先(必ず機関を通じてお問い合わせください)

コールセンター

0120-556739 (フリーダイヤル) ※日本語のみ(Japanese Only)

受付時間 9:30~17:30

(土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始(12月29日~1月3日)を除く)

3. 操作手引き等の入手方法について(2)

- ③ 科研費電子申請システムのトップページが表示されます。
[研究者の方向け情報]又は[所属研究機関担当者向け情報]をクリックします。

応募者
機関担当者
共通



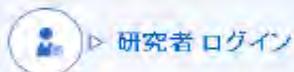
科研費電子申請システムへのアクセスについて

e-RadでログインID・パスワードを変更した場合、変更したログインID・パスワードで科研費電子申請システムにログイン可能となるまで、30分から1時間程度かかります。e-RadでログインID・パスワードを変更した場合は、しばらく時間をおいて科研費電子申請システムにログインしていただきますようお願いいたします。

なお、状況によりさらに時間がかかる場合がありますので、ご了承ください。

特別推進研究、新学術領域研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究、若手研究、研究活動スタート支援、特別研究促進費、特別研究員奨励費(外国人特別研究員)、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)

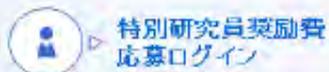
※e-RadのID・パスワードによりログインしてください。



研究者 ログイン

特別研究員奨励費(特別研究員)

※研究機関から付与された特別研究員奨励費応募・交付用のID・パスワードによりログインしてください。

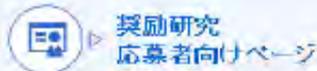


特別研究員奨励費
応募ログイン

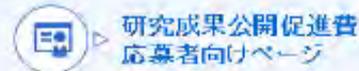


特別研究員奨励費
交付ログイン

奨励研究、研究成果公開促進費

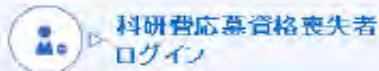


奨励研究
応募者向けページ



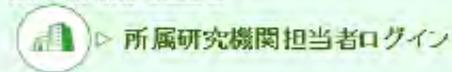
研究成果公開促進費
応募者向けページ

科研費応募資格喪失者



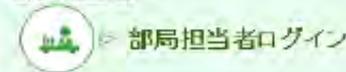
科研費応募資格喪失者
ログイン

所属研究機関担当者



所属研究機関担当者ログイン

部局担当者



部局担当者ログイン

3. 操作手引き等の入手方法について(3)

研究者向け、所属研究機関担当者向けの操作手引等が、それぞれ掲載してあります。

事前準備

- 所属研究機関担当者のID・パスワードの発行について
- 所属研究機関担当者(又は部局担当者)の電子申請システムへのログインについて

応募に関する手続き

- 研究計画書の確認・提出について
- 応募者の部局担当者(事務分担者)の機能について
- 応募についてよくあるご質問

交付申請に関する手続き

- 交付申請書・交付請求書の承認(確認)・取り下しについて
- 申請者の部局担当者の機能について
- 交付申請についてよくあるご質問

コード一覧

各種書類のダウンロード

- 公募要領・研究計画調書等
- 操作手引(応募用)
- フロー図(応募時研究分担者手続きについて)
- 操作手引(交付内定時・決定後)
- コロニー図(交付申請用)

操作体験版

事前準備

所属研究機関担当者のID・パスワードの発行について

電子申請システムを初めてご利用になる場合、e-Radがご利用いただけるような事前準備が必要です。[ご利用環境](#)をご確認の上、以下の手続きを必ず行ってください。

応募者の所属研究機関担当者及び事務分担者が電子申請システムを利用するには、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)が発行したID・パスワードが必要になります。

(1) 研究機関登録申請書(様式)取得

日本学術振興会電子申請システムでは、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)が発行したID・パスワードが必要であるため、e-Radホームページより「所属研究機関登録申請書」をダウンロードします。

所属研究機関事務代表者のID・パスワードを既に取得している場合は、再度取得する必要はありません。

>> [e-Radホームページ「システム利用にあたっての事前準備」](#)

(2) 研究機関登録申請書記入

申請書に必要な事項を記入のうえ、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)運用担当まで郵送します。

(3) ID・パスワード取得

e-Rad研究機関の登録が完了すると、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)運用担当からID・パスワードが送付されます。

>> [e-Rad「所属研究機関向け操作マニュアル」](#)

```
graph TD
    subgraph "Applicant's Affiliated Research Institution"
        A1["(1) 研究機関登録申請書(様式)取得"]
        A2["(2) 研究機関登録申請書記入"]
        A3["(3) ID・パスワード取得"]
        A4["準備完了"]
        A1 --> A2
        A2 --> A3
        A3 --> A4
    end

    subgraph "MEXT (文部科学省)"
        M1["e-Rad"]
        M2["研究機関登録申請受付"]
        M3["審査"]
        M4["e-Rad研究機関登録"]
        M5["ID・パスワード発行"]
        M1 --> M2
        M2 --> M3
        M3 --> M4
        M4 --> M5
    end

    A1 -- "ダウンロード" --> M1
    A2 -- "郵送" --> M2
    M5 -- "郵送" --> A3
```

※ 科研費切当番号(5桁)を必ず記入してください

3. 操作手引き等の入手方法について(4)

応募者
機関担当者
共通

各種書類のダウンロード

- 公募要領・研究計画調書等
- 操作手引(応募用)
- フロー図(応募時研究分担者手続きについて)
- 操作手引(文付内定時・決定後用)
- フロー図(文付申請用)
- 操作体験版**

電子申請システム体験版

電子申請システムの **体験版** をご利用いただけます。

■応募

※基礎研究(Ⅱ)(一般)の研究計画調書を作成する手順をご確認いただけます。
※この体験版は研究計画調書を作成する手順を確認するためのものであり、実際のシステムのように入力内容を保存したり、研究計画調書を提出することはできません。

新規作成 新たに研究計画を作成する手順を確認する

作成再開 一時保存した研究計画調書の作成を再開する手順を確認する

所属研究機関担当者

所属研究機関担当者ログイン

所属局担当者

所属局担当者ログイン

メンテナンス情報

サーバメンテナンスのお知らせ

サーバメンテナンスのため、下記の期間、応募・審査システム及び文付申請システムを停止いたします。期間中は一切の機能がご利用いただけません。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

●令和元年8月24日(土) 8:00 ～ 令和元年8月25日(日) 23:59

お知らせ

2019/8/15 令和元(2019)年度科研費「基礎研究(Ⅱ)、(C)(特設分野研究)」の審査結果の届出について
このことについて、科研費電子申請システム上で開示を開始しましたのでお知らせします。
詳細の開示方法は、[研究者向け操作手引\(審査結果開示用\)](#)をご参照ください。

電子申請システム体験版

応募

文付申請

科研費電子申請システムの体験版では、研究代表者が新たに応募書類(研究計画調書)を作成する手順や、一時保存した応募書類(研究計画調書)の作成を再開する手順を確認できます。

5. 研究代表者が行う手続きについて(1)

(1) ログイン方法

応募者

① 科研費電子申請システムトップページの〔研究者ログイン〕をクリックします。

JSPS
科研費電子申請システム

日本語・English

トップページ 研究者の方
向け情報 所属研究機関担当者
向け情報 ご利用にあたって お問い合わせ先

科研費電子申請システムへのアクセスについて

e-RadでログインID・パスワードを変更した場合、変更したログインID・パスワードで科研費電子申請システムにログイン可能となるまで、30分から1時間程度かかります。e-RadでログインID・パスワードを変更した場合は、しばらく時間を置いて科研費電子申請システムにログインしていただきますようお願いいたします。
なお、状況によりさらに時間がかかる場合がありますので、ご了承ください。

特別推進研究、新学術領域研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究、若手研究、研究活動スタート支援、特別研究促進費、特別研究員奨励費(外国人特別研究員)、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)

※e-RadのID・パスワードによりログインしてください。

研究者 ログイン

② 「応募者ログイン」画面が表示されます。

e-Radの「ID」、「パスワード」を入力し、〔ログイン〕をクリックします。

JSPS
科研費電子申請システム

応募者ログイン
Applicant Login

ID

パスワード
(Password)

ログイン
Log In

(注) 大文字、小文字、全角、半角について、完全一致しないとログインできません。

研究者用のe-RadのIDとパスワードは、研究機関の担当者がe-Radで発行するものです。応募者がID・パスワードを紛失した場合は、各研究機関において、確認・再発行を行ってください。

※e-RadのログインID・パスワードを入力してください。
※e-RadのログインID・パスワードが分からない場合は、所属している研究機関の事務同等に確認してください。
<Enter your e-Rad login ID and password.
<If you don't know your e-Rad login ID and/or password check with the relevant offices/section of your research institution.

5. 研究代表者が行う手続きについて(2)

③「応募者向けメニュー」画面が表示されます。

応募者

応募者向けメニュー Menu for Applicant

応募手続き・交付申請手続きに関するお知らせ
Notice on Application Procedure and Formal application for grant delivery

お知らせ(Notices)

10/11 2010年度科学研究費助成事業 応募情報のWeb入力について
2010年度科学研究費助成事業の応募に係る、応募情報のWeb入力を開始しました。

研究者情報確認 Researcher Information Check

- e-Radで登録された研究者情報を確認する
Check researcher information registered with e-Rad

研究者情報を確認する
Check researcher information

研究分担者承諾 Consent to Become a Co-Investigator

研究分担者になることを承諾・不承諾する場合は、以下から処理を行ってください。
To consent/dissent to become a Co-Investigator, click the below button.

研究分担者の処理を行う
Give a Consent to
Become a Co-Investigator

現在XX件処理待ちです。(The number of items waiting for a consent: XX)

応募手続き Application procedure

- 応募を開始する
Start the application process

特別推進研究
Grant-in-Aid for Specially Promoted Research

新学術領域研究(研究領域探索型)(継続の研究領域・終了研究領域)
Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas
(Continued or Finished Research Area)

5. 研究代表者が行う手続きについて(3)

応募者

(2) 添付ファイル項目様式のダウンロード

- ①「応募者向け」メニュー画面から、応募したい研究種目名をクリックします。
ここでは、基盤研究(C)(一般)に応募する場合を例示します。

応募手続き

Application procedure

▶ 応募を開始する

Start the application process

特別推進研究

Grant-in-Aid for Specially Promoted Research

新学術領域研究(研究領域推進型)(継続の研究領域・終了研究領域)

Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas
(Continued or Finished Research Area)

基盤研究・挑戦的研究・若手研究

Grant-in-Aid for Scientific Research / Grant-in-Aid for Challenging
Research / Grant-in-Aid for Young Scientific

研究活動スタート支援

Grant-in-Aid for Research Activity Start-up

特別研究員奨励費(外国人特別研究員)

Grant-in-Aid for JSPS Research Fellow
(JSPS International Research Fellow)

- ②応募する研究種目の添付ファイル項目様式を、リンク先の日本学術振興会ホームページからダウンロードします。

研究種目名 Research Category	添付ファイル項目 様式のダウンロード Form In-line Download Form Download	URL	応募情報入力 Application Information Input
20xx年度 基盤研究(B)	こちらから取得してください	科学研究費助成事業ホームページ	応募情報入力 Application Information Input
20xx年度 基盤研究(C)(一般)	こちらから取得してください	科学研究費助成事業ホームページ	応募情報入力 Application Information Input

5. 研究代表者が行う手続きについて(4)

(3) 研究計画調書管理メニューの表示

応募者

① 応募する研究種目の[応募情報入力]をクリックします。

研究種目名 Research Category	添付ファイル形式のダウンロード Forms to be Uploaded Form Download	URL	応募情報入力 Application Information Input
20XX年度 基礎研究(S)	こちらから取得してください	科学研究費助成事業ホームページ	* 応募情報入力 Application Information Input
~~~~~			
20XX年度 基礎研究(C)(一般)	<a href="#">こちらから取得してください</a>	<a href="#">科学研究費助成事業ホームページ</a>	<a href="#">* 応募情報入力 Application Information Input</a>

② 重複応募に関する注意書きが表示されます。内容を確認して[OK]をクリックします。

応募情報入力  
Application Information Input

基礎研究(A・B・C)(一般)に応募する場合は以下の研究種目とは重複して応募できません。  
(公募要領「重複応募制限一覧表」参照)  
(1) 以下の研究種目の継続課題を有している場合  
「特別推進研究」「基礎研究(S)」「基礎研究(A・B・C)(一般)」「挑戦的萌芽研究(基礎研究(C)のみ)」「挑戦的研究(開拓)(基礎研究(B・C)のみ)」「挑戦的研究(萌芽)(基礎研究(C)のみ)」「若手研究(A・B)」  
(なお、「特別推進研究」の継続課題を有している場合には、研究分担者として応募することもできません。)

「基礎研究(A・B)(海外学術調査)」  
この継続課題を有している場合も原則として重複応募は認めませんが、明らかに異なる2つの研究を同一年度内に行う必要がある場合には応募することができます。

(2) 以下の研究種目の新規応募をする場合  
「基礎研究(S)(基礎研究(B・C)のみ)」「基礎研究(A・B・C)(一般)」「挑戦的研究(開拓)(基礎研究(B・C)のみ)」「挑戦的研究(萌芽)(基礎研究(C)のみ)」「若手研究」

Parallel submission of research proposals cannot be allowed for the following research categories when applying for Grant-in-Aid for Scientific Research (A/B/C) (General).  
(Refer to "Table of Restriction on Parallel Grant Application/Receipt" in the Application Procedures for Grants-in-Aid for Scientific Research.)  
(1) Applicants who have a continued project of the following research categories:  
Grant-in-Aid for Specially Promoted Research, Grant-in-Aid for Scientific Research (S), Grant-in-Aid for Scientific Research (A/B/C) (General), Grant-in-Aid for Challenging Exploratory Research (only Grant-in-Aid for Scientific Research (C)), Grant-in-Aid for Challenging Research (Pioneering) (only Grant-in-Aid for Scientific Research (B/C)), Grant-in-Aid for Challenging Research (Exploratory) (only Grant-in-Aid for Scientific Research (C)), and Grant-in-Aid for Young Scientists (A/B).  
(In addition, applicants who have a continued project of Grant-in-Aid for Specially Promoted Research cannot apply for multiple projects even as a Co-Investigator(s) (Co-Is).)

Grant-in-Aid for Scientific Research (A/B) (Overseas Scientific Investigation)  
Applicants who have a continued project in these categories are in principle not allowed to submit multiple applications. However, such applicants are allowed to apply if there is a need to conduct two clearly different researches within the same fiscal year.

(2) When applying for a new proposal for the following research categories:  
Grant-in-Aid for Scientific Research (S) (only Grant-in-Aid for Scientific Research (B/C)), Grant-in-Aid for Scientific Research (A/B/C) (General), Grant-in-Aid for Challenging Research (Pioneering) (only Grant-in-Aid for Scientific Research (B/C)), Grant-in-Aid for Challenging Research (Exploratory) (only Grant-in-Aid for Scientific Research (C)), and Grant-in-Aid for Early-Career Scientists.

OK キャンセル  
Cancel

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(5)

応募者

## ③研究計画調書管理メニューが表示されます。

研究計画調書管理  
Management of Research Proposal Document

研究種目名 Research Category	提出先機関名 Name of Submission Destination Institution	研究課題名 Title of Research Project	作成日 Date of Creation
20XX年度 基盤研究(BC)(一般)	ABCDE大学	〇〇〇における×××の研究	XXXX年XX月XX日

<注意事項>

- 研究計画調書は以下の応募情報を入力して作成します。
- 「研究費の応募・受入等の状況」は、継続応募の場合は作成する必要がありません。  
「研究課題情報」の新規・継続区分を「継続」にして保存した場合、応募情報入力ボタンが表示されなくなります。

< Note >

- By entering the following application information, Research Proposal Document will be created.
- It is not necessary to prepare "The Status of Application and Acquisition of Research Grants" in the case of continued applications.
- If you save the New proposal/Continued classification of "Research project information" as "Continued", the button for application information input will not be displayed.

応募情報 Application Information	処理状況 Processing Status	応募情報入力 Application Information Input
研究課題情報 Research project information	作成済 Created 分担承諾完了 Consent from the Co-Investigator has obtained.	修正 Modify
研究経費とその必要性 Research Expenditure and Their Necessity	作成中 Creating	再開 Restart
研究費の応募・受入等の状況 The Status of Application and Acquisition of Research Grants	未作成 Not created yet	応募情報入力 Application Information Input

<注意事項>

- 添付ファイル項目を全て登録することで、PDFを作成することができます。
- 添付ファイル項目以外の項目が未入力の状態でも、「提出確認用」の透かしの入ったPDFを作成することができます。
- 添付ファイル項目についてはWordファイルの代わりにPDFファイルを選択することも可能です。(PDFファイルは添付ファイル項目様式(Word又は本会並びに文部科学省が提供する様式)を基に作成したものに限りです。)
- 添付ファイル項目の頁総数に不足がある場合は、PDF変換時にエラーとなります。
- 添付ファイル項目様式の余白設定を変更すると、エラーとなる場合がありますので、余白設定は変更しないでください。

< Note >

- You can create a PDF file after you finish registering all forms to be uploaded.
- You can create a PDF watermarked as 「提出確認用」(for pre-submission revision) before you enter items other than the items in forms to be uploaded.
- A PDF file can be used instead of a Word file for the forms to be uploaded. (A PDF file must be created using the forms to be uploaded in accordance with the Word file or the format provided by the JSPS or the MEXT)
- If there is a shortage in the total number of pages of the forms to be uploaded, an error will occur during PDF conversion.
- Do not change the margin setting of the forms to be uploaded. Doing so may cause errors.

添付ファイル項目 Forms to be Uploaded	ファイル登録/登録済みファイルダウンロード File Registration / Registered File Download
S-13	登録 Register

次へ進む  
Next

戻る  
Return

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(6)

## (4) 研究課題情報の入力

応募者

### ① 研究課題名等を入力します。

応募情報入力

Japanese > English

画面を表示してから29分経過

最終保存日時からの経過時間を表示。

#### <注意事項>

- ・ *のついた項目は必須項目です。
- ・ 入力中に、一定時間、ボタン操作をせずにおくと、セッションタイムアウトにより、入力した情報が保存されない場合があります。随時[一時保存]ボタンをクリックして情報を保存して案内ページの「よくあるご質問」をご参照下さい。
- ・ 「研究計画調査管理」に戻る場合は、[一時保存をして戻る]ボタンをクリックしてください。
- ・ 複数ウィンドウ(複数タブ)を開いて利用すると、システムが正常に動作しない場合があります。複数ウィンドウでのご利用は控えてください。

科研費電子申請システムは、長時間操作が行われない場合、インターネットからの接続を自動的に切断します。

それまで入力していたデータが消えてしまう可能性がありますので、入力が長時間にわたる場合は、[一時保存]をクリックしてデータをこまめに保存してください。

採択されなかった場合の審査結果について、開示希望の有無を選択してください。

→ 一時保存をして次へ進む

一時保存

一時保存をして戻る

令和3(2021)年度 基盤研究(BC)一般 研究計画調査

新規・継続区分	* 新規 <input type="checkbox"/> (「継続」には、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続の課題のみ該当します。)
研究計画最終年度 前年度応募の有無	* <input type="checkbox"/> (応募する場合、2021年度が研究期間の最終年度に当たる研究を入力)
小区分	* <input type="checkbox"/> <input type="button" value="一覧"/>
研究代表者氏名	(フリガナ)タイヒョウ イチロウ (漢字等)代表 一郎
所属研究機関	(番号)99999   AAA大学
部局	〇〇部
職	教授
研究課題名	(40字以内。英文(半角)の場合は200字以内。)

※【研究経費とその必要性(千円未満の端数は切り捨てる)】で入力した内容が表示されます。

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
研究経費(千円)	0	0	0	0	0

開示希望の有無

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(7)

応募者

## (4) 研究課題情報の入力(続き)

② 研究組織の情報を入力し、研究分担者の承諾依頼を行います。

承諾状況	区分	氏名(年齢)	所属研究機関 部署	1学位 2役割分担	2021年度 研究経費 (千円)	エフォート(%)
	研究代表者	(研究者番号)99999999 (フリガナ)ダイヒョウ イチロウ (漢字等)代表 一郎 (年齢)00才	AAA大学 AA学部 教授	1.* 2.*	* *	*
削除	* 研究分担者	* (研究者番号) <input type="text"/> 検索 (フリガナ) (漢字等) (年齢)				
削除	<input type="checkbox"/> 依頼する	* (研究者番号)1234444 検索 (フリガナ)バンタン タロウ (漢字等)分担 太郎	ABB大学 AB学部	2.*		
削除	分担者不承諾 (不承諾理由67890123 4567890123456789 0123456789012345 67890)	* <input type="checkbox"/>				
削除	分担者未確認	* 研究分担者	(研究者番号)12341234 検索 (フリガナ)バンタン シロウ (漢字等)分担 二郎 (年齢)00才	1. 2.*	*	
削除	分担者承諾 機関承諾未完了 <input type="checkbox"/> 差し戻し	* 研究分担者	(研究者番号)12345674 検索 (フリガナ)バンタン サンロウ (漢字等)分担 三郎 (年齢)00才	1.博士 2.*	* *	10
削除	分担者承諾 機関承諾未完了 <input type="checkbox"/> 差し戻し	* 研究分担者	(研究者番号)12345675 検索 (フリガナ)バンタン シロウ (漢字等)分担 三郎 (年齢)00才	1.博士 2.*	* *	20

基金種目において、2年度目(2022年度)以降に参画することを予定している研究分担者がいる場合には、「2021年度研究経費」と「エフォート」欄には「0」を入力してください。

< 研究分担者となることを依頼する場合 >  
「依頼する」にチェックを入れ、[一時保存]を行うと、当該研究者へ研究分担者となることを依頼できます。

< 研究分担者となることを承諾した研究者が登録内容を修正する場合 >  
「差し戻し」にチェックを入れ、[一時保存]を行うと、当該研究者が登録内容を修正することが可能となります。

画面を表示してから29分経過

一時保存

一時保存

一時保存をして戻る

保存せずに戻る

一時保存

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(8)

応募者

## ※注意

全ての研究分担者が「分担者承諾」の表示にならないと、[一時保存をして次へ進む]をクリックしてもエラーとなり、次へ進むことができません。

全ての研究分担者の「分担者承諾」が完了していない場合は、[一時保存をして戻る]をクリックして「研究計画調書管理」メニューに戻り、ほかの入力項目の入力を進めてください。

「分担者不承諾」となっている研究分担者は、研究組織から削除してください。

一時保存をして次へ進む   一時保存   一時保存をして戻る   保存せずに戻る

画面を表示してから29分経過   一時保存

### 研究計画調書管理 Management of Research Proposal Document

研究種目名 Research Category	提出先機関名 Name of Submission Destination Institution	研究課題名 Title of Research Project	作成日 Date of Creation
20XX年度 基礎研究(BC)(一般)	ABCDE大学	〇〇における×××の研究	XXXX年XX月XX日

#### <注意事項>

- 研究計画調書は以下の応募情報を入力して作成します。
- 「研究費の応募・受入等の状況」は、継続応募の場合は作成する必要がありません。
- 「研究課題情報」の新規・継続区分を「継続」にして保存した場合、応募情報入力ボタンが表示されなくなります。

#### <Note>

- By entering the following application information, Research Proposal Document will be created.
- It is not necessary to prepare "The Status of Application and Acquisition of Research Grants" in the case of continued applications.
- If you save the New proposal/Continued classification of "Research project information" as "Continued", the button for application information input will not be displayed.

応募情報 Application Information	処理状況 Processing Status	応募情報入力 Application Information Input
研究課題情報 Research project information	作成済 Created 分担承諾完了 Consent from the Co-Investigator has obtained	修正 Modify
研究経費とその必要性 Research Expenditure and Their Necessity	作成中 Creating	再開 Restart
研究費の応募・受入等の状況 The Status of Application and Acquisition of Research Grants	未作成 Not created yet	応募情報入力 Application Information Input

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(9)

応募者

## (5) 研究経費とその必要性の入力

### ① 研究経費とその必要性を入力します。

【研究経費千円未満の端数も切り捨てる】

本欄には、各経費の明細およびその必要性・統算根拠について、研究計画調査(添付ファイル項目)を踏まえ入力等をしてください。また、本研究のいずれかの年度において、各費目(設備備品費、旅費、人件費・謝金)が当該年度の全体の研究経費の90%を超える場合及びその他(消耗品費、その他)の費目で、特に大きな必要性(内訳等)を記入してください。  
入力に当たっては、研究計画調査(Web入力項目)作成・入力要領を参照してください。

研究経費と使用内訳は、各経費の明細の入力内容から自動で計算されます。各経費の明細の入力が全て完了したら、再計算ボタンをクリックしてください。

各経費の明細は一時保存時に年度の昇順でソートされて保存されます。

各経費の明細は、所定のフォーマットのCSVファイルを取り込むことで一括に画面に反映することができます。CSVファイルを選択し、CSV取込ボタンをクリックしてください。

CSVファイルの取り込みを行うと、画面の入力内容を確認し、CSVファイルの入力内容で画面を再表示します。

CSVファイルのフォーマットはこちらからダウンロードしてください。

CSVファイル取込機能の詳細は操作手引きをご参照ください。操作手引きのダウンロードページは右上のヘルプボタンから開くことができます。

画面に表示している各経費の明細の入力内容をCSVファイル形式で出力することができます。出力する場合はCSV出力ボタンをクリックしてください。



所定の形式によりCSVファイルを作成し、一括で取り込むことも可能です。

直接経費の入力単位は千円単位となっていますので、ご注意ください。

各経費の明細は、一時保存時に年度の昇順で自動的にソートされます。

数量、単価、金額を入力し、[再計算]をクリックすると、金額が自動計算され、研究経費や使用内訳に反映されます。

年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
2021年度		0	0	0	0	0
2022年度		0	0	0	0	0
2023年度		0	0	0	0	0
2024年度		0	0	0	0	0
2025年度		0	0	0	0	0
総計		0	0	0	0	0

再計算  
(金額単位:千円)

設備備品費						
年度	品名・仕様	設置個数	数量	単価	金額	
前年			*	0	*	0
前年			*	0	*	0
前年			*	0	*	0
追加						

66文字以内で入力。

39文字以内で入力。

消耗品費						
年度	事項					
前年					*	0
前年					*	0
前年					*	0
追加						

36文字以内で入力。

(500字以内、英文(半角)の場合は1000字以内、&lt;br>ですが、1回あたり全角1文字分として換算されます。上記の必要性等について、必ず入力してください。)

設備備品費、消耗品費の必要性

入力文字数: 0文字

「設備備品費」「消耗品費」を計上する場合には、その必要性を必ず入力してください。

画面を表示してから29分経過 一時保存

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(10)

応募者

## (5) 研究経費とその必要性の入力(続き)

### ② 研究経費とその必要性を入力します。

事項を追加したい場合は[追加]をクリックしてください。また、入力後に削除したい場合は[削除]をクリックしてください。

※入力していない費目は、研究計画調書のPDFファイルでは「0円」と表示されます。

直接経費の入力単位は千円単位となっていますので、ご注意ください。

各経費の明細は、一時保存時に年度の昇順で自動的にソートされます。

36文字以内で入力。

金額を入力し、[再計算]をクリックすると、金額が自動計算され、研究経費や使用内訳に反映されます。

「旅費」「人件費・謝金」「その他」を計上する場合には、その必要性を必ず入力してください。

国内旅費			(金額単位:千円)	
削除	年度	事項	金額	
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="追加"/>				
合計				0

外国旅費			(金額単位:千円)	
削除	年度	事項	金額	
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="追加"/>				
合計				0

人件費・謝金			(金額単位:千円)	
削除	年度	事項	金額	
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="追加"/>				
合計				0

その他			(金額単位:千円)	
削除	年度	事項	金額	
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="削除"/>	<		*	0
<input type="button" value="追加"/>				
合計				0

(500字以内、英文(半角)の場合は1000字以内。改行は3回まで入力可。改行は表示上0文字ですが、1回あたり全角1文字分として換算されます。上記の必要性欄について、必ず入力してください。)

旅費、人件費・謝金、その他の必要性

入力文字数: 0文字

画面を表示してから29分経過

← 一時保存をして次へ進む

一時保存

一時保存をして戻る

保存せずに戻る

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(11)

応募者

## (6) 研究費と応募・受入等の状況の入力 研究費の応募・受入等の状況を入力します。

### 【研究費の応募・受入等の状況】

※研究課題を入力する場合、入力画面左側の「追加」ボタンを必要な回数押すことでデータ入力枠が設定されます。使用しない欄(入力したが使用しない場合や全く入力しなかった場合)については、当該欄の左側の「削除」ボタンを押してデータ入力枠を削除してください。

本欄は、「研究資金の不合理な重複や過度の集中に陥らず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照しますので、正確に記載してください。本研究の研究代表者の、応募時点における(1)応募中の研究費、(2)受入予定の研究費について入力してください。具体的な入力内容については、研究計画調査(Web入力項目)作成入力要領を参照してください。

「エフォート」欄には、年間の全仕事時間を100%とし、所属研究機関内で競争的に配分される研究費のエフォート割合を入力してください。

研究者氏名 代表 一郎  
(1) 応募中の研究費

今回応募する研究課題については、既に入力している情報が自動表示されます。

300文字以内で入力。

役割	1. 資金制度・研究費名(配分機関名) 2. 研究期間 3. 研究課題名 4. 研究に入力された	2021年度 研究経費 (期間全体額) (千円)	2021年度 エフォート (%)	研究内容の相違点及び 他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額を記入すること)
代表	1.【本応募研究課題】基礎研究(BC)(一般) 2.2021年度～2022年度 3.0000000000 4.	9,999,999	XX%	総額 9,999,999千円
削除	1.* 先に「役割」を選択してください 2.<西暦>* 年度～<西暦>* 年度 3.* 4.<姓>* (名)			総額 千円

科研費の研究代表者である場合は、研究分担者の分担金を含む、研究期間全体の直接経費の総額を入力してください。

(2) 受入予定の研究費

研究種目名を選択してください。科研費以外の場合は、「その他」を選択し、「資金制度・研究費名」、「配分機関名」を入力してください。

当該研究費の「2021年度研究経費」、「期間全体額」、「2020年度エフォート」を入力してください。

なお、「2021年度研究経費」、「期間全体額」には、本人が受け入れ自ら使用する研究費の直接経費の額を入力してください。

「(3) その他の活動」のエフォートは、自動で算出されます。

なお、(1)と(2)の合計が100%を超えている場合、エラーが表示されます。

(3) その他の活動	XX%
(1)、(2)、(3)のエフォートの合計	100%

## 5. 研究代表者が行う手続きについて(12)

応募者

### (7) 添付ファイル項目のアップロード 添付ファイル項目をアップロードします。

#### <注意事項>

- ・ 添付ファイル項目を全て登録することで、PDFを作成することができます。
- ・ 添付ファイル項目以外の項目が未入力の状態でも、「提出確認」の透かしの入ったPDFを作成することができます。
- ・ 添付ファイル項目についてはWordファイルの代わりにPDFファイルを選択することも可能です。(PDFファイルは添付ファイル項目様式(Word又は本会並びに文部科学省が提供する様式)を基に作成したものに限りです。)
- ・ 添付ファイル項目の頁総数に不足がある場合は、PDF変換時にエラーとなります。
- ・ 添付ファイル項目様式の余白設定を変更すると、エラーとなる場合がありますので、余白設定は変更しないでください。

#### <Note>

- ・ You can create a PDF file after you finish registering all forms to be uploaded.
- ・ You can create a PDF watermarked as 「提出確認用」(for pre-submission revision) before you enter items other than the items in forms to be uploaded.
- ・ A PDF file can be used instead of a Word file for the forms to be uploaded. (A PDF file must be created using the forms to be uploaded in accordance with the form type.)
- ・ If there is a shortage in the total number of pages of the forms to be uploaded, an error will occur during PDF conversion.
- ・ Do not change the margin settings of the forms to be uploaded. Doing so may cause errors.

あらかじめ作成した添付ファイル項目 (Wordファイル又はPDFファイル) を選択し、[登録]をクリックしてください。

添付ファイル項目 Forms to be Uploaded		ファイル登録/登録済みファイルダウンロード File Registration / Registered File Download
S-18	参照...	登録 + Register

※アップロード可能な添付ファイル項目の容量は、研究種目によって異なります。  
各研究種目の最大容量は、科学研究費助成事業ホームページの「研究計画調書作成・記入要領」をご参照ください。

※アップロードした添付ファイル項目を差し替える場合は、一旦削除して再度アップロードしてください。

添付ファイル項目 Forms to be Uploaded	ファイル登録/登録済みファイルダウンロード File Registration / Registered File Download	
S-22(1)	ダウンロード Download	削除 Delete

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(13)

## (8) 研究計画調書PDFファイルの生成、提出(送信)

応募者

①全ての応募情報の入力と、添付ファイル項目のアップロードが完了したら、**[次へ進む]**をクリックします。

研究計画調書管理  
Management of Research Proposal Document

研究種目名 Research Category	提出先機関名 Name of Submission Destination Institution	研究課題名 Title of Research Project	作成日 Date of Creation
20xx年度 基盤研究(BC)(一般)	ABCDE大学	〇〇〇における×××の研究	xxxx年xx月xx日

<注意事項>

- 研究計画調書は以下の応募情報を入力して作成します。
- 「研究費の応募・受入等の状況」は、継続応募の場合は作成する必要がありません。
- 「研究課題情報」の新規・継続区分を「継続」にして保存した場合、応募情報入力のボタンが表示されなくなります。

< Note >

- By entering the following application information, Research Proposal Document will be created.
- It is not necessary to prepare "The Status of Application and Acquisition of Research Grants" in the case of continued applications.
- If you save the New proposal/Continued classification of "Research project information" as "Continued", the button for application information input will not be displayed.

応募情報 Application Information	処理状況 Processing Status	応募情報入力 Application Information Input
研究課題情報 Research project information	作成済 Created 分担承諾完了 Consent from the Co-Investigator has obtained.	修正 Modify
研究経費とその必要性 Research Expenditure and Their Necessity	作成中 Creating	修正 Modify
研究費の応募・受入等の状況 The Status of Application and Acquisition of Research Grants	未作成 Not created yet	修正 Modify

<注意事項>

- 添付ファイル項目を全て登録することで、PDFを作成することができます。
- 添付ファイル項目以外の項目が未入力の状態でも、「提出確認用」の透かしの入ったPDFを作成することができます。
- 添付ファイル項目についてはWordファイルの代わりにPDFファイルを選択することも可能です。(PDFファイルは添付ファイル項目様式(Word又は本会並びに文部科学省が定める様式)で作成してください。)
- 添付ファイル項目の頁総数に不足がある場合は、PDF変換時にエラーとなります。
- 添付ファイル項目様式の余白設定を変更すると、エラーとなる場合がありますので、余白設定は変更しないでください。

< Note >

- You can create a PDF file after you finish registering all forms to be uploaded.
- You can create a PDF watermarked as 「提出確認用」(for pre-submission revision) before you enter items other than the items in forms to be uploaded.
- A PDF file can be used instead of a Word file for the forms to be uploaded. (A PDF file must be created using the forms to be uploaded in accordance with the Word file format.)
- If there is a shortage in the total number of pages of the forms to be uploaded, an error will occur during PDF conversion.
- Do not change the margin setting of the forms to be uploaded. Doing so may cause errors.

・重複応募制限に抵触していると、エラーメッセージが表示されます。  
・全ての研究分担者の承諾及び当該研究分担者の所属研究機関の承諾が完了していないと、エラーメッセージが表示されます。

**[次へ進む]**をクリックすると、研究計画調書(PDFファイル)の生成が開始されます。

目次  
S-13

参照

ダウンロード  
Delete

次へ進む  
Next

戻る  
Return

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(14)

応募者

②生成された研究計画調書のPDFファイルを確認し、[確認完了・提出]をクリックします。

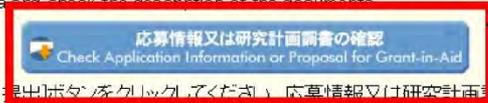
応募情報又は研究計画調書確認  
Check Application Information or Research Proposal Document

送信した応募情報又は研究計画調書はPDFファイルに変換されました。  
あなたの応募情報又は研究計画調書は今後このPDFファイルで処理されます。  
The transmitted Application Information or Research Proposal Document has been transformed into a PDF file.  
From here on, your Application Information or Research Proposal Document will be processed using this PDF file.

**(1) 応募情報又は研究計画調書の確認ボタンをクリックしてPDFファイルをダウンロードし、内容を確認してください。**  
(挑戦的研究(開拓・萌芽)については、研究計画調書(概要版)と研究計画調書(本体)の2つのPDFファイルをまとめたZIPファイルか  
してください。)

**(1) Click [Check Application Information or Research Proposal Document] to download the PDF file. Check the contents of the**  
As for the Challenging Research (Pioneering/Exploratory), pressing the button to create the converted ZIP file from the two PDF files, the  
Proposal Document (Outline) and the Research

必ず、研究計画調書のPDFファイルを確認してください。



(2)ダウンロードしたPDFファイルの内容に不備がなければ[確認完了・提出]ボタンをクリックください。応募情報又は研究計画調書は所属研究機関担当者に提出されます。  
不備があった場合には、[修正]ボタンから修正してください。

(2) If there is no need to change the downloaded PDF file, click [Confirmed/Submit]. By this, your Application Information or Research Proposal Document is submitted to the relevant staff of your research institution.

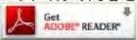
If you need to modify the contents of the PDF file, click [Modify] to modify.



研究計画調書のPDFファイルを確認し、問題がなければ、[確認完了・提出]をクリックしてください。

<注意事項>

- 記入内容の確認を行い、[確認完了・提出]ボタンをクリックし、所属研究機関担当者承認が得られるまで承認待ち状態となります。承認待ち状態のまま承認されない場合は、所属研究機関担当者承認が得られず、日本学術振興会に受付されません。なお、新学術領域研究(研究領域提案型)については、所属研究機関担当者承認が得られるまで承認待ち状態となります。
- PDFファイルの内容を確認するには、Adobe Readerが必要です。



<Important Notes>

- Unless you check the information you entered, your application will not be approved by the relevant staff of your research institution. Unless the relevant staff of your research institution approves your application, it will not be received by the Japan Society for the Promotion of Sciences. For the Challenging Research (Pioneering/Exploratory), your application is submitted to the Head Investigator after it is confirmed by the relevant staff of your research institution.
- Adobe Reader is required to view the PDF file. If you have not installed Adobe Reader yet, click the button below to install the software.



処理状況一覧に戻る(後で確認する)  
Return to List of Processing Status (check later)

## 5. 研究代表者が行う手続きについて(15)

### ③ 研究計画調書を研究機関に提出(送信)します。

応募者

応募情報又は研究計画調書提出確認  
Confirmation of Submitting Application Information or Research Proposal Document

応募情報(※研究組織の情報を含む)又は研究計画調書を確認完了・提出すると応募情報又は研究計画調書を修正  
Once an Application Information (* including the information on the project members) or Research Proposal Document  
Information or Research Proposal Document cannot be modified or deleted.  
よろしければ、[OK]ボタンをクリックしてください。  
If you are ready to confirm/submit, click [OK].

「確認完了・提出」処理を行うと、研究代表者は修正ができなくなります。修正する場合には、機関担当者が[却下]して、研究代表者が修正できる状態にする必要があります。

OK

キャンセル  
Cancel

下のような画面が表示されれば、所属研究機関への提出(送信)手続きが完了です。

応募情報又は研究計画調書確認完了  
Application Information or Research Proposal Document Confirmed

所属研究機関担当者が確認できる状態になりました。  
応募情報又は研究計画調書を印刷する場合には、以下の[応募情報又は研究計画調書の確認]ボタンをクリックしてPDFファイルをダウンロードしてください。  
The relevant staff of your research institution can now check the Application Information or Research Proposal Document you submitted.  
To print your Application Information or Research Proposal Document, click the [Check Application Information or Research Proposal Document] button below and download the PDF file.

応募情報又は研究計画調書の確認  
Check Application Information or Proposal for Grant-in-Aid

応募情報又は研究計画調書を修正・削除したい場合は、所属研究機関担当者に連絡してください。  
If you wish to modify or delete your Application Information or Research Proposal Document, contact the relevant staff of your research institution.

提出(送信)した研究計画調書を確認することができます。

応募情報又は研究計画調書の確認画面から確認してください。  
To check the application status, view the List of Processing Status screen.

JSPS Monthly(学振便り)の購読申し込みについて  
Information about Email Bulletin JSPS Monthly Subscription Application

科研費の公募に関する情報など、日本学術振興会の行う事業に関する最新の情報はJSPS Monthly(学振便り)からも得ることができます。お申し込みは[こちら](#)から。  
Information about the programs implemented by the Japan Society for the Promotion of Sciences (JSPS) such as the calls for applications for KAKENHI grants can also be obtained from the bulletin JSPS Monthly. Click [here](#) to apply for subscription.

所属する研究機関の定める期限までに、研究計画調書を提出(送信)してください。

OK

# 5. 研究代表者が行う手続きについて(16)

研究種目名 Research Category	提出先機関名 Name of Submission Destination Institution	研究課題名 Title of Research Project	作成日 Date of Creation
20XX年度 基盤研究(BC)(一般)	ABODE大学	〇〇〇における×××の研究	XXXX年XX月XX日

<注意事項>

- 研究計画調査書は以下の応募情報を入力して作成します。
- 「研究費の応募・受入等の状況」は、継続応募の場合は作成する必要がありません。
- 「研究課題情報」の新規・継続区分を「継続」にして保存した場合、応募情報入力ボタンが表示されなくなります。

<Note>

- By entering the follows application information, Research Proposal Document will be created.
- It is not necessary to prepare "The Status of Application and Acquisition of Research Grants" in the case of continued applications.
- If you save the New propos / Continued classification of "Research project information" as "Continued", the button for application information input will not be displayed.

応募情報 Application Information		処理状況 Processing Status	応募情報入力 Application Information Input
研究課題情報 Research project information		作成済 Created	修正 Modify
研究経費とその必要性 Research Expenditure and Their Necessity		分担承諾完了 Consent from the Co-Investigator has obtained.	再開 Restart
研究費の応募・受入等の状況 The Status of Application and Acquisition of Rese...		作成中 Creating	再開 Restart
		未作成 Not created yet	応募情報入力 Application Information Input

添付ファイル項目の登録が済んでいれば、応募情報の入力が未完了、あるいは分担者承諾が未完了の状態でも、確認用のPDFファイルを作成することが可能です。

※ただし、確認用のPDFファイルは研究機関に提出(送信)することはできません。

<注意事項>

- 添付ファイル項目を全て登録することで、PDFを作成する。
- 添付ファイル項目以外の項目が未入力の状態でも、PDFを作成可能。
- 添付ファイル項目についてはWordファイルの代わりにPDFファイルのアップロードも可能。
- 添付ファイル項目の頁総数に不足がある場合は、PDF添付ファイル項目様式の頁目設定を変更すると、エラーメッセージが表示されます。

<Note>

- You can create a PDF file after you finish registering all forms to be uploaded.
- You can create a PDF watermarked as "提出確認用" (for pre-submission revision) before you enter items other than the forms to be uploaded.
- A PDF file can be used instead of a Word file for the forms to be uploaded. (A PDF file must be created using the forms to be uploaded in accordance with the Word file or the format provided by the JSPS or the MEXT)
- If there is a shortage in the total number of pages of the forms to be uploaded, an error will occur during PDF conversion.
- Do not change the margin setting of the forms to be uploaded. Doing so may cause errors.

添付ファイル項目 Forms to be Uploaded	ファイル登録/登録済みファイルダウンロード File Registration / Registered File Download
S-13	登録 Register

次へ進む  
Next



提出確認用

確認用のPDFファイルには、「提出確認用」という透かしが入ります。



# 5. 研究分担者が行う手続きについて(1)

応募者

①「応募者向けメニュー」の[研究分担者の処理を行う]をクリックします。

## 応募者向けメニュー Menu for Applicant

応募手続き・交付申請手続きに関するお知らせ  
Notice on Application Procedure and Formal application for grant delivery

### お知らせ(Notices)

10/10 20XX年度科学研究費助成事業 応募情報のWeb入力について  
20XX年度科学研究費助成事業の応募に係る、応募情報のWeb入力を開始しました。

## 研究者情報確認 Researcher Information Check

- e-Radで登録された研究者情報を確認する  
Check researcher information registered with e-Rad

研究者情報を確認する  
Check researcher information

## 研究分担者承諾 Consent to Become a Co-Investigator

研究分担者になることを承諾・不承諾する場合は、以下から処理を行ってください。  
To consent/dissent to become a Co-Investigator, click the below button.

研究分担者の処理を行う  
Give a Consent to  
Become a Co-Investigator

現在XX件処理待ちです。(The number of items waiting for a consent: XX)

## 応募手続き Application procedure

- 応募を開始する  
Start the application process

特別推進研究  
Grant-in-Aid for Specially Promoted Research

新学術領域研究(研究領域提案型)(継続の研究領域・終了研究領域)  
Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas  
(Continued or Finished Research Area)

# 5. 研究分担者が行う手続きについて(2)

応募者

②「承諾」、「不承諾」を選択し、「学位」、「エフォート」を入力の上、[OK]をクリックします。

研究分担者承諾-不承諾登録  
Registration of Co-Investigators' Consent/Dissent

以下の応募者からの研究分担者の承諾-不承諾を登録します。  
よろしければ、[OK]ボタンをクリックしてください。  
Register consent/dissent of Co-Investigator requested from below applicant.  
If it is OK with you, click [OK] button.

研究題目名 Research Category	20xx年度 基礎研究(C) (一般) (漢字等) (姓) 応募 (名) 一郎 (フリガナ) (姓) オウゴ (名) イチロウ
氏名 Name	
所属機関名 Research Institution	XX大学
所属名 Academic Unit	XX学部
職名 Position	特任教授
研究課題名 Title of Research Project	XXXXXXXXXX

研究分担者  
Co-Investigator

承諾(Consent)  
 不承諾(Dissent)

研究分担者になることを承諾する場合は、以下の内容を確認しチェックボックスにチェックを入れてください。  
If you consent to become a Co-Investigator, check the contents below and check the checkbox.

- 標記研究課題について、研究計画の遂行に関して研究代表者と協力しつつ、補助事業者として研究遂行責任を分担して研究活動を行う研究分担者となることを承諾します。  
For this research project, I consent to become a Co-Investigator who bears responsibility for the implementation of the research project in cooperation with the Principal Investigator.
- 科研費の補助条件(交付条件)及び以下の内容を理解し、遵守するとともに研究代表者から分担金の配分を受け科研費を適正に使用することを約束します。  
I have read, understand and will comply with the KAKENHI supplementary conditions (funding conditions) and the terms stipulated in the following, and pledge that I will receive my share of KAKENHI from the Principal Investigator and use it properly.

学術研究に対する国民の委託及び科研費が国民の貴重な税金で賄われていることを十分認識し、科研費を適正かつ効率的に使用するとともに、研究において不正行為を行わないこと。  
You have to recognize that citizens have placed trust in scientific research and that KAKENHI are funded with their tax; and you therefore have to use KAKENHI in a proper and efficient way and refrain from committing research misconduct during my research.

当該研究課題の交付申請前まで(交付決定後)においては、研究代表者が日本学術振興会に研究分担者の変更承認申請を行う前までに研究倫理教育教材(科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、研究倫理eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics[eL-CORE])、APRIN eラーニングプログラム(e-APRIN等)の受講・修得をすること。または、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(2014年8月26日 文部科学大臣決定)を踏まえ研究機関が実施する研究倫理教育の受講をすること。  
You have to fulfil the requirement for the research ethics education coursework either by reading a textbook such as "For the Sound Development of Science - The Attitude of a Conscientious Scientist -" ("For the Sound Development of Science" Editorial Committee on JSPS), by taking an e-Learning course such as the "e-Learning Course on Research Ethics [eL-CORE]" or "APRIN e-learning program (e-APRIN)", or by participating in the research ethics education course conducted at his/her institution based on the "Guidelines for Responding to Misconduct in Research" (Adopted August 26, 2014 by the MEXT), prior to the formal application for grant delivery (or, in case the grant has already been delivered, by the time the "application for approval of change for the Co-Investigator" is submitted by the Principal Investigator to JSPS).

当該研究課題の交付申請前まで(交付決定後)においては、研究代表者が日本学術振興会に研究分担者の変更承認申請を行う前までに日本学術会議の声明「科学者の行動規範—改訂版—」や、日本学術振興会「科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—」の内容のうち、研究者が研究遂行上配慮すべき事項について、十分内容を理解し確認すること。  
You have to understand thoroughly and confirm on what the researchers should consider, in conducting of their researches, from amongst the contents of both the statement "Code of Conduct for Scientists - Revised Version -" by the Science Council of Japan and the booklet "For the Sound Development of Science - The Attitude of a Conscientious Scientist -" by the JSPS, by the time of the formal application for grant delivery of the concerned research project. (Or, by the time when the "application for approval of change for the Co-Investigator" is to be submitted to the JSPS by the Principal Investigator, in case the official grant decision thereof has been already made.)

承諾する場合は、研究分担者の「学位」と分担する研究の「エフォート」を入力してください。  
If you consent to become a Co-Investigator, enter the "Academic Degree" of the Co-Investigator and "Effort" of the research project in which the Co-Investigator participate.

学位 Academic Degree	
エフォート00 Effort 00	

※本欄に記載したエフォート e-Read)提供されます。本研究課題が採択された際に、交付申請時点のエフォートに反映されますので、その時点で変更の必要があれば変更手続きを行ってください。  
* The data of effort you enter in this column will be provided to e-Read and shown at the time of the formal application for grant delivery when the proposed research project is adopted. You can accordingly carry out the procedure to modify your effort if necessary.

不承諾の理由  
Reason for the Dissent

入力文字数(Number of characters entered): 0文字/50文字  
※50文字以内で入力してください。  
* Enter within 50 characters.

[OK] [キャンセル]

# 5. 研究分担者が行う手続きについて(3)

応募者

※特別推進研究、基盤研究(S)の場合は、研究分担者が自身の研究費の応募・受入等の状況を入力する必要があります。

(1) 応募中の研究費 / (1) Research Grant Application(s) in the Review Process

役割 Role in this Project	1. 資金制度・研究費名(配分機関名) 2. 研究期間 3. 研究種別名 4. 研究代表者氏名 1. Funding System/Research Grant Name (Funding Agency Name)/List (詳細) 2. Research Period 3. Title of the Research Project 4. Name of the Principal Investigator	2020年度 研究総費 (補助金総額) Research Expenditure for FY 2020 (throughout the period) (千円) FY 2020 Effort (%)	2020年度 二フオート (%) FY 2020 Effort (%)	本応募研究課題と当該研究課題との関係 I. 研究内容の共通性 II. 当該研究課題に加えて他応募研究課題に応募する理由 (料研究費の研究代表者である場合は、研究期間重複の受入額を入力すること。) Relationship between the KAKENHI application and the other projects I. Disposition of the research contents II. Reason for submission of this KAKENHI application in addition to the other projects. (For a KAKENHI grant as Principal Investigator, enter the total research expenditures for the whole research period.)
分担者(Principal Investigator)	1. 本応募研究課題]特別推進研究 2. 2020年度～2024年度 3. ○の××に関する研究 4. (姓)代表 (名)一郎 1. [▼] 2. (西暦/FY) [ ]年度～(西暦/FY) [ ]年度 3. [ ] 4. (姓/Family Name) [ ] (名/First Name) [ ]	9,999,999 (9,999,999)	XX%	総額/Sum Total = [ ]千円/Thousand Yen I. [ ] II. [ ]

(2) 受入予定の研究費 / (2) Research Grant(s) Adopted and to be Delivered

役割 Role in this Project	1. 資金制度・研究費名(配分機関名) 2. 研究期間 3. 研究種別名 4. 研究代表者氏名 1. Funding System/Research Grant Name (Funding Agency Name)/List (詳細) 2. Research Period 3. Title of the Research Project 4. Name of the Principal Investigator	2020年度 研究総費 (補助金総額) Research Expenditure for FY 2020 (throughout the period) (千円) FY 2020 Effort (%)	2020年度 二フオート (%) FY 2020 Effort (%)	本応募研究課題と当該研究課題との関係 I. 研究内容の共通性 II. 当該研究課題に加えて他応募研究課題に応募する理由 III. 現在進行中の研究(「新学術領域研究」、「基盤研究」、「挑戦的研究」、「挑戦的萌芽研究」、「若手研究」)をやりやめて本研究を行う理由 Relationship between the KAKENHI application and the other projects I. Disposition of the research contents II. Reason for submission of this KAKENHI application in addition to the other projects. III. Reason for applying this research after withdrawing current research underway ("Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas", "Grant-in-Aid for Scientific Research", "Grant-in-Aid for Challenging Research", "Grant-in-Aid for Challenging Exploratory Research", "Grant-in-Aid for Young Scientists")
分担者(Principal Investigator)	1. [▼] 2. (西暦/FY) [ ]年度～(西暦/FY) [ ]年度 3. [ ] 4. (姓/Family Name) [ ] (名/First Name) [ ]	[ ]	[ ]%	I. [ ] II. [ ] III. [ ]
分担者(Principal Investigator)	1. [▼] 2. (西暦/FY) [ ]年度～(西暦/FY) [ ]年度 3. [ ] 4. (姓/Family Name) [ ] (名/First Name) [ ]	[ ]	[ ]%	I. [ ] II. [ ] III. [ ]

(3) その他の活動 (3) Other Activities	XX%
(1), (2), (3)の二フオート合計 Total of the Effort in (1), (2) and (3) Above	100%